

JTF JOURNAL 11/12 #286

2016

翻訳の未来を考える

巻頭特集

ISO規格の最新動向



Bill Weber

お客様のご要望に応えるため
更なるベストサービスを目指しています。

プロジェクトチームに 参加しませんか？

在宅・オンサイト
翻訳者募集中！

IT関連 半導体関連 化学分析 金融

医療・医薬・医療機器 マーケティング・ビジネス関連

Communications for a global marketplace

第26回 JTF 翻訳祭出展

2016年11月29日(火) 9:30～20:30 (開場・展示会開始 9:00～)

目印は着物姿です！



今回で26回目(皆勤賞)の出展です！

十印のブースへ是非お立ち寄りください。

パネルディスカッション

「世界が見る翻訳の品質、日本が見る翻訳の品質」に
弊社品質管理マネージャーの建部が登壇しますので、ご参加ください。

https://www.jtf.jp/festival/festival_program.do#koen_022



株式会社十印(とおいん)
〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目25番5号 オーク五反田ビル
TEL 03-5759-4371 (採用担当窓口まで) <http://www.to-in.com> (「お問い合わせ」)

ごくらくじてん
語句楽辞典
 for iOS

※タブレット本体は含まれません。



- 1つのアプリで収録全辞書から一度に検索!
- 英語・米語のネイティブ発音付き! ※対象辞書のみ機能です。

セイコーの電子辞書がiPadアプリになりました

<p>●スタンダード LA-U0002 9 コンテンツ収録</p> <p>アカデミック想定価格(税抜) LA-U0002 ¥10,000</p>	<p>●プレミアム LA-U0001 19 コンテンツ収録</p> <p>アカデミック想定価格(税抜) LA-U0001 ¥23,500</p>
---	---

App Store からダウンロード 「語句楽辞典」はApp Storeでダウンロードし、お手持ちの32GB以上のiPadにインストールしてご使用いただけます。「大学生向けスタンダード」版、「大学生向けプレミアム」版をご使用するには別売のアカウントカードが必要です。

セイコーソリューションズ株式会社 製品及び購入、価格に関するお問い合わせ先: TEL 0570-044-800(固定電話・PHS・携帯 ※通話料はおお客様ご負担となります。)

ご購入はこちらのホームページから ▶▶▶ <http://www.kgem.co.jp/gokurakujiten.html>

● Apple, Appleのロゴ, App Store, iPadのロゴ, iTunesは、米国および他国のApple Inc.の登録商標です。

New Standards in Translation

募集中!

営業、コーディネータ、校正スタッフなど、多くの人材を各拠点で募集しております!

- 言語** 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語 韓国語 等(その他言語も募集中)
- 分野** 特許・工業・医薬・金融・ローカライゼーション
- 内容** 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注オペレーター 等
- 応募方法** 下記ウェブサイトからご応募下さい

株式会社 翻訳センター JASDAQ 証券コード:2483

- 大阪** 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
 TEL:06-6282-5010 E-Mail:info@honyakuctr.co.jp
- 東京** 東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル8階
 TEL:03-6369-9965 E-Mail:freelance@honyakuctr.co.jp
- 名古屋** 名古屋市中村区名駅3丁目16番4号 太陽生命名駅ビル5階
 TEL:052-571-2101 E-Mail:nagoya@honyakuctr.co.jp

医薬翻訳 Medical	工業翻訳 Industry
金融翻訳 Financial	HONYAKU CENTER New Standards in Translation 株式会社 翻訳センター
特許翻訳 Patent	

「英語が好き」を仕事にしたい。わたしの夢を、ここでかなえる。

通学科／通信科講座、
ワンデーセミナーなど
多彩なプログラムをご用意。
「翻訳実務検定TQE」を運営し、
翻訳者の育成に力を入れています。

未来の翻訳者が集う場所
SUNFLARE Academy
サン・フレアアカデミー

お問い合わせ ☎ **03-6675-3965**

受付時間 / 平日 10:00～20:00 土曜日 10:00～17:00

詳しくはウェブサイトで

サンフレアアカデミー

検索



Chizai
Corporation

言葉をインフラに、世界の知財をつなぐ 私たちは知財のプロフェッショナルです

業務内容

- ◎ 特許翻訳【英語・中国語・韓国語・欧州アジア各国言語】
- ◎ 知財アカデミー®【教育・情報提供】
- ◎ 知財ヒューマンリソースズ®【人材派遣・人材紹介】
- ◎ 国内／海外出願用図面作成【特許・意匠】
- ◎ 海外出願事務代行サービス、海外特許調査
- ◎ 中国知財裁判情報提供

フリーランス特許翻訳者常時募集中!

※応募方法など詳細は www.chizai.jp へアクセスください。

海外拠点

* 中国現地法人
知財信息咨询(上海)有限公司
www.chizai.com.cn

* 共同出資会社
雅訳諮詢(大連)有限公司
www.asia-translate.com

株式会社 知財コーポレーション (創立1976年)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル7階

TEL: (03)5909-1181(代) FAX: (03)5909-1183

www.chizai.jp E-mail: info@chizai.jp ISO9001:2008認証取得

2016年12月、
創立40周年を迎えます



6 翻訳業界カレンダー

巻頭特集:ISO規格の最新動向

- 8 ISO規格の最新動向 ● 河野 弘毅
10 第5回 ISO/TC37/SC5 コペンハーゲン年次総会 参加報告 ● 森口 功造、田嶋 奈々、佐藤 晶子

連載記事

- 18 続・翻訳者のための作戦会議室
第4回 翻訳とはなにか～足元を見直そう～ ● 高橋 さきの
- 20 メディカル翻訳最前線
第4回 がんの今を知る ● 早川 威士
- 22 いまさらながらの・・・CATツール★超基本
第4回 翻訳支援ツールと品質 ● 加藤 じゅんこ
- 24 帽子屋の辞典十夜 第4回「COBUILD～コーパスから生まれた学習英英」● 高橋 聡
- 26 翻訳品質のランチボックス 第4回 TAUS DQFの評価手法 ● 西野 竜太郎
- 28 翻訳者のためのWord再入門 第4回 編集作業の効率化 ● 新田 順也
- 30 機械翻訳の近未来 第4回 統計的機械翻訳(続き) ● 本間 奨
- 32 翻訳と私 第3回 翻訳を仕事にするまで ● 石垣 賀子
- 34 翻訳テクノロジーを学ぶ 第4回 ～機械翻訳編 その1～ ● 山田 優

36 翻訳業界インデックス



表紙撮影: 世良武史

JTF JOURNAL

日本翻訳ジャーナル

2016年11月/12月号 #286

発行人 ● 東 郁男(会長)

編集人 ● 河野 弘毅

jtf

JAPAN TRANSLATION FEDERATION

一般社団法人 日本翻訳連盟

〒104-0031

東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F

TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604

info@jtf.jp http://www.jtf.jp/

無断転用禁止 ©2016 Japan Translation Federation

		イベント名	内容	講師等	主催
11 2016	8	JTA セミナー	英文契約書の和訳セミナー 第2回 リーガル翻訳で気をつけるべき5つのポイント	高田 道子	日本翻訳協会 (JTA)
	12	JATLAW 法律翻訳セミナー	一般条項の重要性: 主な一般条項は何か・不可抗力条項・仲裁条項 (講演は英語、質疑は日本語可)	Chris Rathbone	日本翻訳者協会 (JAT)
	13	森田思軒顕彰講演会	「没後120年 翻訳する森田思軒」近代化の進む明治期に文学作品を英語から日本語へ訳した森田思軒がどのような思いで翻訳に取り組んだかを探る。平成28年度岡山県生涯学習大学連携講座	齊藤 美野	笠岡市立図書館 (岡山県)
	16	JATPHARMA 医薬翻訳東京集会	「力をつけよう! 医薬翻訳者のスキルビルディング」 ワークショップ: Writing Like a Native (日本人に多い英訳の誤り) プレゼンテーション: Structured Terminology: 作って学ぶ, 構造化用語集	ベン・トンプキンス 柳瀬 大輔 リー・シーマン 池上 小湖 原 恵美子	日本翻訳者協会 (JAT)
	17	JTA セミナー	「英字新聞を徹底的に読み解く!」セミナー 第2回 欧州、英国のポピュリズムと米トランプ現象の共通点		日本翻訳協会 (JTA)
	19	TAC 東京セミナー	どれくらい難しいのでしょうか? 自分のCATツールを作る	リチャード・ウォーカー	日本翻訳者協会 (JAT)
	19	JTA 公認 出版翻訳能力検定試験	第14回絵本翻訳能力検定試験 第11回スピリチュアル翻訳能力検定試験		日本翻訳協会 (JTA)
	23	JATPHARMA 医薬翻訳関西セミナー	一般視聴者向け医療動画の翻訳 (森口・池上) 効果的なメディカルライティング (石原) 臨床試験デザインおよび CONSORT (山下)	森口 理恵 池上 小湖 石原 安信 (塩野義製薬株) 山下 弘毅 (株 Maxwell International)	日本翻訳者協会 (JAT)
	25	第4回 特許情報シンポジウム	特許情報や機械翻訳などに関する有識者を招き、研究論文、調査報告、実務報告、政策提言などさまざまな内容について発表する。 「特許庁における機械翻訳の取り組み」(加藤) 「ニューラルネットワークを用いた自然言語処理の最先端」(鶴岡) 「Domain Adaptation for Machine Translation at NAVER LABS.」(Lee) 「日本語の素晴らしさとユーザーの機械翻訳への大きな期待」(奥山)	加藤 啓 (特許庁) 鶴岡 慶雅 (東京大学) Hyoung-Gyu Lee (NAVER LABS, NAVER Corporation) 奥山 尚一 (久遠特許事務所) 他	アジア太平洋機械翻訳協会 (AAMT) 日本特許情報機構 (Japio)
	25	JTA セミナー	【中級編】出版翻訳者を目指すためのセミナー	柴田 裕之	日本翻訳協会 (JTA)
	29	第26回 JTF 翻訳祭	テーマ「考えよう、翻訳のこと～とともに歩む翻訳の未来へ～」		日本翻訳連盟 (JTF)
29	JTA セミナー	フィクションを翻訳して出版するための実践セミナー	近藤 裕子	日本翻訳協会 (JTA)	
12	3	JAT 東京忘年会 2016年	会場: 京橋ジャズミンバル		日本翻訳者協会 (JAT)
	12	第3回アジア翻訳ワークショップ (WAT2016) (COLING2016 併設開催)	アジア言語に重点を置いた機械翻訳エンジン評価ワークショップ。今回は対象領域を学術論文・特許・ニュース・TEDトークとし、対象言語を日本語・中国語・韓国語・ヒンディー語・インドネシア語・英語とする。	賀沢 秀人	科学技術振興機構 (JST) 情報通信研究機構 (NICT) 京都大学
	13	国際計算言語学会議 (COLING2016)	自然言語処理分野で国内外のトップレベルの研究者が参加する国際会議。隔年で開催され、今年は大阪で開催される。日本での開催は1994年の京都開催以来22年ぶり。	Dina Demner-Fushman Reiko Mazuka Joakim Nivre Simone Teufel	International Committee on Computational Linguistics (ICCL) 言語処理学会
	15	JTA セミナー	「英字新聞を徹底的に読み解く!」セミナー 第3回 英国のEU離脱後の世界	江國 真美	日本翻訳協会 (JTA)
	17	JTA 公認 出版翻訳能力検定試験	一般教養書 (ビジネス関連) 翻訳能力検定試験 一般教養書 (サイエンス関連) 翻訳能力検定試験		日本翻訳協会 (JTA)
	20	JTF 翻訳セミナー	いつまでもアマと思うなよ 8年後の逆襲(?) ～金融翻訳者が語る自立するための心かけと具体的な方法2～	鈴木 立哉	日本翻訳連盟 (JTF)
1 2017	12	CIUTI FORUM 2017	SHORT- AND LONGTERM IMPACT OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE ON LANGUAGE PROFESSIONS	Place: Geneva, Switzerland	CIUTI
	28	第66回 JTF <ほんやく検定>	実用レベル 英日翻訳・日英翻訳 基礎レベル 5級・4級		日本翻訳連盟 (JTF)

注意: この記事に掲載した情報は各団体がウェブサイトなどで公開している情報をもとにJTFジャーナル編集部が編集執筆しています。内容には正確を期していますが、万一誤りや不適切な内容がございましたら日本翻訳連盟事務局までお知らせください。



私は 本気で極めたい

実務に即した授業
充実の講師陣

時代に生き残る専門力を身につけた翻訳者に



医学翻訳教室アンセクレツォの無料会員に登録をしてみませんか？

アンセクレツォのウェブサイトですべての会員登録をさせていただくと会員限定のいろいろなページにアクセスができます。

翻訳において使う用語、表現、冠詞、また原稿の文章をどう読み解くか？といった、医学翻訳に長年携わってきた講師陣が考える、**読み手に誤解を与えない**、ちょっとした翻訳のコツも掲載しています。

問題に回答頂いた方に無料で翻訳の添削を行うページもあります。

ぜひアンセクレツォのウェブサイトを訪れてみてください。

医学翻訳を学びたい方、研修のお問い合わせは

製薬企業様向けの語学研修・安全性研修も行っております。

アンセクレツォ



医学翻訳教室 アンセクレツォ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-21-2 京橋第九長岡ビル 4F
株式会社ウィズウィグ内
TEL : 03-5566-7757

<http://ansekureco.wysiwyg.co.jp/>

WysiWyG

医薬品業界に強い派遣サイト「WWスタッフィング」を立ち上げました

ウィズウィグでは翻訳、安全性情報、メディカルライティングの豊富な経験と、製薬、医療機器、CROなどの医薬品業界企業様とのつながりを活かし、派遣事業を開始、派遣登録サイト **WWスタッフィング**を立ち上げました。

派遣スタッフとしてお仕事を探されている方にはスキルと経験に応じて働き甲斐のある職場をご紹介します。翻訳のスキルアップにはアンセクレツォも派遣スタッフの皆様をサポートします。

ぜひウィズウィグとWWスタッフィングのウェブサイトを訪れてみてください。

翻訳者のご応募、業務のお問い合わせは

ウィズウィグ



株式会社ウィズウィグ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-21-2 京橋第九長岡ビル 6F

TEL : 03-5566-1669

<http://www.wysiwyg.co.jp/>

巻頭特集

ISO規格の 最新動向

翻訳プロセスに関する要求事項を規定した国際規格であるISO17100の存在は翻訳業界の中でもよく知られるようになってきました。日本国内では一般財団法人日本規格協会（JSA）がISO17100にもとづく翻訳サービス提供者（TSP）の認証を2015年からはじめて、JSAの認証を取得した組織の数も2016年9月13日現在で17まで増えています（<https://shinsaweb.jisa.or.jp/Contents/MSCoverage/TSPsoshiki.pdf>）。

しかし、ISOが開発に取り組んでいる国際規格は17100だけではありません。というよりも、翻訳通訳に関する国際規格の発行はまだ始まったばかりで、これから多数の規格が策定される可能性があるということをご存知でしょうか。この見開きページに掲載した表は、17100を開発したISOの委員会であるTC（専門委員会）37の下のSC（分科委員会）5が管理しているプロジェクトの一覧です。規格としての番号がISOのウェブサイトで公開されているプロジェクトが13個、これに加えて今年6月にコペンハーゲンで開催された年次総会で提案された、その時点でまだ番号のついていない新業務項目が3個あります。すでに発行された11669、13611、17100を除いても13個の標準化プロジェクトが発行にむけて議論されているわけです。

今回の特集記事では、17100以外の規格についても翻訳通訳業界の皆さんによく知っていただきたいという期待を込めて、コペンハーゲン年次総会に参加したISO国内委員会が作成した参加報告を全文掲載しました。プロジェクトの一覧表にある「参照先」という列が参加報告の該当ページになります。

法務通訳・医療通訳・会議通訳の規格案が登場

規格の名称を見るだけでもすぐわかるように、翻訳以上に通訳に関する規格が多数策定されています。すでに承認段階（FDIS）に達している通訳機器に関する3つの規格（2603、4043、20109）、通訳サービス一般に対する要求事項を規定する18841がDIS登録され、法務通訳サービスの要求事項（20228）、医療通訳サービスおよび会議通訳サービスの新業務項目提案（p.14参照）など個別分野に関する規格の策定が検討されていることは、特にそれぞれの分野に従事している通訳者の方にとって注目すべき状況だと思われます。

翻訳の品質保証に関する規格の動向にも注目

翻訳に関しても注意すべき標準があります。コペンハーゲン報告の中ではまだ番号が付与されていませんが、新業務項目提案として「翻訳の品質保証と評価」（Translation quality assurance and assessment - Models and metrics）の策定が賛成多数により決定し、のちにISO/NP21999として採番されました。翻訳にかかわるすべての人にとって品質とその管理は常に関心のあるテーマですから、この規格のこれからの動向にも注意が必要です。（河野）

ISO/TC37/SC5が管理する国際規格およびプロジェクト(2016.10.7現在)

この表は本特集に掲載した参加報告とISOウェブサイトに掲載された公開情報をもとに編集部で作成しています。掲載された情報は2016年10月7日時点のものであり、審議の進行とともに審査段階その他の情報は変更されていきますので、最新の状況とは異なる場合があることに注意ください。利用にあたっては最新の状況をご確認ください。

参考にしたISOウェブサイトのURL : http://www.iso.org/iso/home/store/catalogue_tc/catalogue_tc_browse.htm?commid=654486

国際規格名称	参照先	提案段階	作成段階	委員会段階	照会段階	承認段階	発行段階	見直し段階
翻訳の品質保証と評価 Translation quality assurance and assessment - Models and metrics	p.13							
医療通訳サービス Medical/healthcare interpreting	p.14							
会議通訳サービス Conference interpreting	p.14							
ISO/NP 20771 法務翻訳サービスの要求事項 Legal and specialist translation services — Requirements	p.12	10.99 新規プロジェクトの承認						
ISO/AWI 20539 翻訳・通訳・通訳機器の用語 Translation, interpreting and related technology — Vocabulary	p.16		20.00 新規プロジェクトをTC/SC業務計画に登録					
ISO/DIS 18841 一般通訳サービスの要求事項 Interpreting services — General requirements and recommendations	p.13				40.00 DISの登録			
ISO/DIS 20108 同時通訳音響機器及び画像に関する要求事項 Simultaneous interpreting — Quality and transmission of sound and image input - Requirements	p.15				40.00 DISの登録			
ISO/DIS 20228 法務通訳サービスの要求事項 Legal interpreting	p.14				40.00 DISの登録			
ISO/DIS 21720 XLIFF (XML Localisation interchange file format)	—				40.20 DIS投票の開始:5か月			
ISO/DIS 18587.2 ポストエディットサービスの要求事項 Translation services — Post-editing of machine translation output — Requirements	p.12				40.60 投票結果要約の発送			
ISO/FDIS 2603 同時通訳ブースの一般的特徴と機器の要求事項 Simultaneous interpreting — Permanent booths — Requirements	p.15							
ISO/FDIS 4043 同時通訳移動ブースの一般的特徴と機器の要求事項 Simultaneous interpreting — Permanent booths — Requirements	p.15					50.20 FDIS投票の開始2か月校正刷りを幹事国に送付		
ISO/FDIS 20109 同時通訳機器に関する要求事項 Simultaneous interpreting — Equipment — Requirements	p.15							
ISO 13611:2014 Interpreting — Guidelines for community interpreting	—						60.60 国際規格の発行	
ISO 17100:2015 翻訳サービスの要求事項 Translation services — Requirements for translation services	p.11						60.60 国際規格の発行	
ISO/TS 11669:2012 Translation projects — General guidance	—							90.93 国際規格の承認

Report

ISO/TC37/SC5 MEETING COPENHAGEN, DENMARK

第5回 ISO/TC37/SC5 コペンハーゲン年次総会 参加報告

報告者

株式会社川村インターナショナル 取締役
森口 功造 (JTFISO 検討会副議長、ISO 国内委員会委員)

株式会社翻訳センター 品質管理推進部 部長
田嶋 奈々 (JTFISO 検討会翻訳PJTリーダー、ISO 国内委員会委員)

アトリエ・アーク・マリー 代表者
佐藤 晶子 (JTFISO 検討会通訳PJTリーダー、ISO 国内委員会委員)

ISO/TC 37 総会がデンマーク、コペンハーゲンで開催された。翻訳、通訳及び関連技術に関する分科委員会 (SC5) 会議は以下の日程で開催され、国際規格が検討された。

June 2016 ISO/TC 37/SC5 コペンハーゲン会議日程 (2016年6月26日~2016年7月1日)

6月26日	日	14:00-16:00	ISO/TC 37年次フォーラム
		16:00-18:00	ISO/TC 37 BP (ISO 本部およびPメンバー国代表ミーティング)
6月27日	月	9:00-9:45	ISO/TC37/SC5 開会式 (新業務項目の説明等)
		10:00-13:00	ISO/CD20228 法務通訳サービスの要求事項
		14:00-17:00	ISO17100 翻訳サービスの要求事項 ISO/DIS18587 PEサービスの要求事項 新業務項目の提案 (1) ISO/NP 翻訳の品質保証と評価
6月28日	火	9:00-12:00	ISO/CD20228 法務通訳サービスの要求事項 ISO/CD2 18841 一般通訳サービスの要求事項 新業務項目の提案 (1) ISO/NP 医療通訳サービス 新業務項目の提案 (2) ISO/NP 会議通訳サービス
		14:00-17:00	ISO 20539 翻訳・通訳・通訳機器 の用語
6月29日	水	9:00-12:00	ISO/DIS2603 同時通訳ブースの一般的特徴と機器の要求事項 ISO/DIS4043 同時通訳移動ブースの一般的特徴と機器の要求事項 ISO/CD20108 同時通訳音響機器及び画像に関する要求事項 ISO/DIS20109 同時通訳機器に関する要求事項
		14:00-17:00	ISO/DIS2603 同時通訳ブースの一般的特徴と機器の要求事項 ISO/DIS4043 同時通訳移動ブースの一般的特徴と機器の要求事項 ISO/CD20108 同時通訳音響機器及び画像に関する要求事項 ISO/DIS20109 同時通訳機器に関する要求事項
		18:00-	市庁舎でレセプション
6月30日	木	9:00-12:00	ISO/WD20771 法務翻訳サービスの要求事項
		14:00-17:00	ISO 20539 翻訳・通訳・通訳機器 の用語
7月1日	金	9:00-12:00	ISO/TC 37/SC5 総会
		14:00-17:00	ISO/TC 37 総会

作業部会で検討された内容は以下の通りである。

作業部会(WG)1 — 翻訳

ISO17100 翻訳サービスの要求事項

<ISO17100とは>

翻訳サービス提供者がサービスを提供する際に遵守すべき翻訳プロセスや翻訳者の資格などを規定した規格である。

<これまでの経緯>

- ・ 2012年、ISO TC37/SC5/WG1にて検討が開始された(スペイン・マドリッド総会)。
- ・ 2013年、翻訳者の資格の要求事項「箇条3.1.4」について、翻訳学位のない日本の主張により、『翻訳教育が行われていれば、学位の名称に「翻訳」の記載がなくてもよい』との注記が盛り込まれた(南アフリカ・プレトリア総会)。
- ・ 2014年、日本の主張した注記が盛り込まれたドラフトで合意を得た(ドイツ・ベルリン総会)。
- ・ 2014年、最終のFDIS投票にて賛成多数により可決された。

<事務局のミスで注記が削除された状態で投票にかけられたが誰も気づかず>

- ・ 2015年5月、17100が発行された。
<注記の誤削除に気づいた事務局が注記を戻して発行したが、その際に分かりやすいようにとの意図で文言を勝手に変更>
- ・ 2015年6月、日本・松江総会が開催された。17100は発行済みとのことで議論は行われず。この際、発行済みの17100の注記について異論を申し立てる国はなかった。
- ・ その後、最終のFDIS投票時には含まれていなかった注記が、発行された17100には盛り込まれていること、また当初のドラフトから文言が変わっていることに気づいた複数の国から異議申し立てがあった。本件についてWG内で様々な議論が行われたが、最終的にはISO中央事務局の指導により、DISのステージに戻して再度議論が行われることになった。ただし、問題があった箇条3.1.4のみを議論することが投票によって決まった。

<コペンハーゲン総会直前の動き>

- ・ コペンハーゲン総会前、プロジェクトチームは箇条3.1.4の最終文案を下記の内容で回覧し、各国が意見を述べた。数か国を除き、ほとんど国がプロジェクトチームに賛成の意を表した。

- ・ 文言は変更されているものの、日本が当初主張した内容は盛り込まれていることを理由に、日本はプロジェクトチームの意見に賛成する旨のコメントを提出した。

以下、プロジェクトチームの最終文案

- a) has obtained a degree in translation, linguistics or language studies or an equivalent degree that includes **significant** translation training, from a recognised institution of higher education;
- b) has obtained a degree in any other field from a recognized institution of higher education and has the equivalent of two years of full-time professional experience in translating;
- c) has the equivalent of five years of full-time professional experience in translating.

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ まず、プロジェクトチームから今回の経緯について説明があった。今後、同様のミスが発生しないよう、プロジェクトリーダー、事務局などの役割を明確にするよう、一部の国から要請があった。
- ・ その後、プロジェクトチームの最終文案に反対した国(フィンランド、コロンビア)の意見が紹介され、その部分について議論が行われた。
- ・ 反対国は、上記「significant」という用語が解釈に左右されるため、より具体的あるいは定量評価が可能な文言に変更することを主張した。
- ・ 『翻訳教育が行われていれば、学位の名称に「翻訳」の記載がなくても認めてほしい』との日本の主張は既に各国の合意が得られており、あらためて議論になることはなかった。
- ・ 定量評価が可能な文言に変更すると(例えば、「○時間以上の教育」あるいは「majority」に変更する等)、教育制度の違いにより合意が困難であることから、「significant」のままにすることが決定された。
- ・ 今後、プロジェクトチームが提案した最終文案にて投票が開始される。
(森口功造確認。報告者：田嶋奈々)

ISO/DIS18587 PEサービスの要求事項

<18587とは>

機械翻訳後の処理としてポストエディット作業を実施する際に遵守すべきプロセスやポストエディターの資格などを規定した規格である。

<これまでの経緯>

- ・ 2012年、ISO TC37/SC5/WG1にて検討が開始された(スペイン・マドリッド総会)。
- ・ 2012年10月、NWIP投票が開始され、2013年1月に賛成多数により可決された。
- ・ 2013年、ISO TC37/SC5/WG1にて初版のWDをベースに議論が行われた(南アフリカ・プレトリア)。
- ・ 2014年、CDとして回覧された文書について議論を行った(ドイツ・ベルリン総会)。
- ・ 2015年、数回のオンラインミーティングを経て、5月にDIS版を作成。DIS投票が開始された。回覧期間と重複したため、6月に開催された松江総会では議論の対象にならなかった。
- ・ 2015年8月、DISへの投票案件は否決された。
- ・ 2015年12月、否決の主因となったポストエディターの資格などについて修正がなされた2nd DISが回覧され、オンラインミーティングにて議論を行った。
- ・ 2016年2月、議論の結果を反映した2nd DISの回覧が開始され、4月に2nd DIS投票が開始された。
- ・ 2016年6月賛成多数で可決された(賛成18カ国/反対2カ国/棄権9カ国)。

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 投票終了直後であることから議論は実施されず、上記のとおりこれまでの経緯の共有と、投票時に寄せられたコメントを反映してFDISを作成する見込みであることが伝達された。
(田嶋奈々確認。報告者：森口功造)

ISO/WD20771 法務翻訳サービスの要求事項

<20771とは>

法務および法務専門家による翻訳サービスを規定する規格である。

<これまでの経緯>

- ・ 松江総会で新業務項目の提案が行われ、策定が決定した。

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 文書は、総会前の2016年4月17日付け『ISO/WD 20771』でISO事務局からPメンバー国に配信された。本規格は法務関係の翻訳サービスに関する規格である。定義は昨年発行されたISO17100と重複する箇所もあるが、さらに法務関係に特化した翻訳サービスを提供するTSPに関する規定を策定する規格となる。
- ・ セッションでは、コンビーナ役を務めるオーストリア代表マンフレッド・シュミッツ氏の司会で、プロジェクトリーダー(ポーランド代表モニカ・ポピオレック氏、アイルランド代表ピーター・レノルズ氏)から同規格に関する説明があった。国ごとに法律が異なるが、国によっては法務関係書類の翻訳版は原本と同じ効力を持つ場合が多く、トルコ政府関係者からは、特に重要な規格であるとのコメントがあった。法律翻訳に関して法規定があるドイツの代表からは、「specialist translation」という文言をタイトルから外してはどうかという意見があった。英国の弁護士資格を持ち、日本国内委員会のオブザーバーとして参加した委員からは、法務関連資格を取得することにより、かえって分野の制限を受ける場合もある、どう専門化するかを明確にするべきであるという2点の指摘があった。オーストラリアからは慎重に扱う必要があるとのコメントが寄せられた。
- ・ セッション内で以下の質問に対する挙手投票が求められた。
 - i) タイトルから「specialist translation」を削除する。
 - ii) 「specialist translation」を発展させ、同規格内の他の箇所で述べる。投票結果は、i) Yes ii) Noが多数であった。日本も i) Yes ii) Noに挙手した。

<今後>

- ・ SC5コンビーナからは、先に発行されたISO17100を「改善する」という考えではなく、「専門化」させる規格であるとの回答があった。ISO17100を踏襲するが、法務関係の翻訳サービスに特化し、専門化した規格策定が必要である。日本ではISO17100の認証機関が発足し、会議に参加したPメンバー国の中では、英国と同様に認証を行っている。ISO17100でも「金融・経済・法務」として法務の分野が特定されている。今後は各国の事情を鑑みながら、何をどのように策定していくかが問われるだろう。同時に法務関係翻訳サービスを提供する翻訳者の資格と専門的力量的規定が重要になると考えられる。
(ミーハン・右田・アンドリュウ氏、クレイトン・グエン氏確認。報告者：佐藤晶子)

新業務項目の提案(1) ISO/NP 翻訳の品質保証と評価

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 新たな規格「Translation quality assurance and assessment - Models and metrics」(翻訳の品質保証)に関する新業務項目の提案・説明があった。(6月28日。田嶋奈々、森口功造出席)
- ・ SC5総会で挙手投票が行われた。日本は詳細が不明という理由から棄権(Abstain)投票を行った。賛成多数で策定が決定した。(7月1日。ミーハン・右田・アンドリュー氏、佐藤晶子出席)

<今後>

- ・ 策定が進められる。



写真1: 2016年6月27日、コペンハーゲン・ビジネススクールで開催されたTC37総会開会式(田嶋撮影)

作業部会(WG)2 — 通訳

ISO/CD18841 一般通訳サービスの要求事項

<18841とは>

- ・ 通訳者、通訳会社を対象とした一般的な通訳サービスを規定した規格である。

<これまでの経緯>

- ・ ベルリン総会での経緯に関しては「翻訳・通訳のISO規格の最新動向」『日本翻訳ジャーナル』(一般社団法人日本翻訳連盟: http://journal.jtf.jp/topics_detail25/id=408)、松江総会の検討事項は「2015年ISO/TC 37/SC 5 日本・松江総会参加報告」『日本翻訳ジャーナル』(一般社団法人日本翻訳連盟: <http://journal.jtf.jp/special/id=512>)を参照のこと。佐藤はベルリン総会以降、策定プロジェクトメンバーとしてCD策定に参加している。

<コペンハーゲン総会当日までの議論>

- ・ プロジェクトリーダーであるマージョリー・バンクロフト氏が2015年松江会議後に辞任した。新たにプロジェクトリーダーを決めるべきである。が、現在、コンビーナのヴェロニカ・ペレ=ガニエーリ氏およびISO事務局のベッティナ・セイトル氏が各国コメントをまとめ、WebEx会議の招集を調整し、得られた各国の意向を草稿に反映している。草稿編集は、英国代表のマイケル・カニングム氏が担当している。
- ・ 5月30日に行われたWebEx会議においては、TSPとISPの違いが生じないようにISO17100と用語の概念を統一する配慮を行うことが強調された。ISO17100のTSPに関する定義で議論された「Competence」と「Skill」の違いをISPに適用する、「Native Language」「Primary Language」をどう捉えるか、A Languageをどう考えるかの議論が行われた。今後は、こうした細部に渡る話し合いは、WebEx会議で行われることになる。

<今後>

- ・ 6月28日時点、コンビーナによると、コペンハーゲン会議終了3週間後にはDIS投票を行う。
(報告者: 佐藤晶子)

ISO/CD20228 法務通訳サービスの要求事項

<20228とは>

- ・ 法務に関する通訳サービスを規定した規格である。

<これまでの経緯>

- ・ 2014年のベルリン総会で新業務項目の提案が行われ、2015年松江総会で作業原案(WD)が検討され、松江総会后、投票によって委員会原案(CD)へと進み、コペンハーゲン会議ではCDが検討された。

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 本規格の内容から、タイトルに「Legal interpreting」の文言を使用するほうが適切である。
- ・ 2016年の年初に行われた「『要求事項』か『一般指針』か」の投票について、日本側は「一般指針」に投票した。各国の投票結果は「要求事項」が過半数を超えた。そのため日本にとって要求事項の条項遵守が難しいと思われる箇所は、注記(Note)や附属書(Annex)で対応してもらえよう極力働きかけていくと、水野氏、ミーハン氏、佐藤で事前に話し合いを行っていた。
- ・ 昨年の作業原案(Working Draft :WD)が大幅に変更され、各国コメントを変更履歴で反映した2016年6月2日付委員会原案(Committee Draft :CD)が、コペンハーゲン会議前にPメンバーに配信された。その原案と各国が提出したコメントとプロジェクトリーダーの採用/不採用の決定に従い、セッションでの検討が進められた。
- ・ 本規格では欧州中心で実施されている語学試験「CEFR」を例に挙げ、助動詞は強制力のある「shall」を使った条項で、言語的力量(Linguistic Competence)が規定されていた。そのため、ISO国内委員会委員の水野氏、ミーハン氏、佐藤の連名で日本において普及率の高い公益財団法人日本英語検定協会実施の「英語検定」、一般財団法人国際ビジネス協会実施の「Test of English for International Communication:TOEIC」、特定非営利活動法人日本語検定委員会実施の「日本語検定」を、コンビーナであるヴェロニカ・ベレ＝ガニエーリ氏とプロジェクトリーダーのリーゼ・カチンカ氏にセッション後に通知した。
- ・ また、法務通訳サービス提供者の言語的力量に関する規定について、マイナー言語の法務通訳サービス提供者に関する注記の挿入を依頼した。それが認められたため、水野氏、ミーハン氏、佐藤の連名でガニエーリ氏とカチンカ氏に対し、セッション後に通知した。

<今後>

- ・ 9月をめどに、DIS投票が行われる予定である。(水野真木子氏、ミーハン・右田・アンドリュウ氏確認。報告者：佐藤晶子)

新業務項目の提案(1) ISO/NP 医療通訳サービス

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 新たな規格「Medical/healthcare interpreting」(医療通訳サービス)についてイザベル・スーザ氏から提案・説明があった。

<今後>

- ・ 投票が行われる。
- ・ 医療通訳の英語は「medical interpreting」にするか「healthcare interpreting」にするかは、今後検討する。
- ・ ある国の代表団の中で新たな参加者と従来の参加者との間で意見が割れ、他国代表が見守る中で議論が長引いた。そのため、コンビーナから、今後、各国は新たな国内委員会委員を派遣せず、これまでと同じISO国内委員会委員が続けて出席し、自国内での事前調整を行い、会議での議論においては時間の節約を徹底してほしい旨の要請があった。(ミーハン・右田・アンドリュウ氏確認。報告者：佐藤晶子)

新業務項目の提案(2) ISO/NP 会議通訳サービス

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 新たな規格「Conference interpreting」(会議通訳サービス)についてクラウス・シーグラウ氏から提案・説明があった。

<今後>

- ・ 医療通訳サービスと並行して、新規規格として進めていくかの投票が行われる。コンビーナから、今後、各国は新たな国内委員会委員を派遣せず、これまでと同じISO国内委員会委員が続けて出席し、自国内での事前調整を行い、会議での議論においては時間の節約を徹底してほしい旨の要請があった。(ミーハン・右田・アンドリュウ氏確認。報告者：佐藤晶子)

作業部会(WG)3 — 通訳機器

ISO/DIS2603 同時通訳ブースの 一般的特徴と機器の要求事項

ISO/DIS4043 同時通訳移動ブースの 一般的特徴と機器の要求事項

ISO/CD20108 同時通訳音響機器 及び画像に関する要求事項

ISO/DIS20109 同時通訳機器に 関する要求事項

<2603、4043、20108、20109とは>

- ・ ISO/DIS2603は1998年に発行された規格の改訂であり、同時通訳ブースに関する一般的特徴と機器を規定した規格である。ISO/DIS4043も1998年に発行された規格の改訂であり、同時通訳移動ブースに関する一般的特徴と機器を規定した規格である。ISO/CD20108は同時通訳音響機器および画像について規定した規格であり、ISO/DIS20109は同時通訳機器に関して規定した規格である。

<これまでの経緯>

- ・ 通訳機器に関する規格は同一セッション内で4件の規格が同時に検討されてきた。
- ・ ベルリン会議で2603、4043の改訂、20108、20109の新業務項目の提案が行われ、賛成多数で承認された。
- ・ 松江会議では、日本側から会場設置型同時通訳ブースの規定以下のサイズに関する注記挿入依頼は承認されなかったが、移動式ブースで対応できるため、問題がないとの認識だった。
- ・ 「遠隔通訳」は、欧州は「Distance Interpreting」であるが、「Remote Interpreting」を使う国も多いため、定義は注記を挿入することになった。
- ・ 技術は日進月歩でオーディオ機器のバッテリー時間等、長期になる傾向が著しいため、具体的な数値を入れる必要はないのではないかという日本側の提案は、欧州では基準を満たさない機器も多く存在し、具体的な数値は必要であるとの回答だった。

<コペンハーゲン総会当日の議論>

- ・ 日本は、明瞭度(20108:4.6)について、目標値の0.64を残しながらも、「shall」を「should」にするよう要請したが、レベルを下げられないとの回答で日本側の提案は却下された。
- ・ 音声と画像の同期について(20108:6)は数値「音声の遅延90 m sec」、「音声の先行25 m sec」の再検討

または、規定における助動詞「shall」を「should」にするよう要請したが、同じくレベルを下げられないとの回答で日本側の提案は却下された。

- ・ 音声と画像の通訳者側の受信状態(20108:7)遅延に関する規定の数値は、欧州各国間よりも欧州と日本を含むアジア諸国間であれば、遠隔であるため、具体的な数値を記載することは無理があるのではないかと考え、6項と同じく、「shall」から「should」への変更を要請したが、欧州-日本間でも全く問題がなかったとのコンビーナであるマーグリット・レリ氏から回答があり、英国からはレベルを下げることになる「shall」から「should」への変更は認められないとのコメントが寄せられた。遅延は200msから500msになったが、十分許容範囲であるとのコメントが寄せられた。その数値になっても日本側は問題がない。
- ・ コペンハーゲンでは日本側は、規定の条項にある助動詞「shall」を一部「should」にするよう要請したが、「レベルを下げられない」との回答で日本側の上記提案はすべて却下された。提案事項の却下に対応する次案があるため、このままFDISに進み、発行されても日本側は問題がない。「日本の提案を検討するために時間がかかってしまった」「日本だけのためにレベルを下げられない」とのコメントがセッション中レリ氏から寄せられた。「日本の現状は全体的にレベルが低い」とも受け取られかねない。発行間近となり、当該規格に関してはコメントシート記入の機会はないが、今後は誤解を避ける意味でも、コメントシートの書き方には注意が必要だろう。
- ・ ISO/DIS2603、ISO/DIS4043、ISO/DIS20109はFDIS投票後、今年度中に発行の予定であり、ISO/CD20108は投票後DIS段階に進み、2017年年初発行を目指している。
(篠原明夫氏、ミーハン・右田・アンドリュー氏確認。
報告者：佐藤晶子)



写真2：ライトの機器を持参し天井照明の明瞭度をデモするカナダ代表(撮影許可済。佐藤晶子撮影)

SC5用語調整グループ (SC5/TCG)

ISO 20539

翻訳・通訳・通訳機器 の用語

<SC5用語調整グループ(TCG)および ISO 20539とは>

- ・ TCGとは、SC5で検討・発行している規格の用語の整合性を検討するグループである。2015年度前任者から引き継ぎ、EU職員であるマイケル・ショート氏がコンビーナを務めている。
- ・ 本総会では、本グループの活動にSC5の全プロジェクトからの代表者が参加することが決まった。(6月28日開催。オブザーバー出席:ミーハン・右田・アンドリュー氏、森口功造、田嶋奈々、佐藤晶子)
- ・ プロジェクトの代表者が参加することでプロジェクト間の齟齬は回避されるが、Pメンバー国の参加は歓迎される。各国の代表者は各プロジェクトに参加するのみで問題はないが、コンビーナからは、特にWG1～WG3に全参加した委員に対し、本グループへの参加が促された。

<今後>

- ・ 今後 WebEx 会議で規格策定の検討が行われる。日本参加を考えて、WebEx 会議は日本時間午後11時(欧州サマータイム午後4時)に設定された。(6月30日開催。オブザーバー出席:石崎俊氏、ミーハン・右田・アンドリュー氏、佐藤晶子)

第6回 ISO/TC37/SC5 ウィーン年次総会

- ・ 第6回ISO/TC37/SC5年次総会は、オーストリア、ウィーンで開催される。大規模なイベントと重なるため、ホテル予約は1年前から受け付けている。

謝辞

- ・ 報告者3名はJTF理事会承認を受け、ISOコペンハーゲン会議に派遣された。
- ・ 本報告は、ISO国内委員会の確認を得ている。

以上

翻訳関連ファイル形式のISO標準

翻訳支援ツールを使っている方にとってはおなじみのファイル形式としてXLIFF、TMX、TBXがありますが、これらにはいずれも対応または関連するISO規格がすでに存在します。

- ・バイリンガルファイルの標準形式であるXLIFFについては、TC37/SC5が管理するISO/DIS 21720でそのものズバリXLIFF (XML Localisation interchange file format)が規格化されており、段階はすでにDISまで進んでいます。投票期間(12週間)は7月25日から10月16日までなので、この記事が読者のお手元に届くころにはすでに投票が終了しているはず。ちなみに規格の内容はOASISが2014年8月に制定したXLIFF Version2.0と一致しているようです。
- ・翻訳メモリのファイル形式であるTMXは、TC37/SC4が管理するISO 24616:2012「Language resources management -- Multilingual information framework」において、MLIFというメタモデルを中心とした文脈の中で言及があるようです。
- ・用語集のファイル形式であるTBXは、TC37/SC3が管理するISO 30042:2008「Systems to manage terminology, knowledge and content -- TermBase eXchange (TBX)」としてすでに発行済みです。

このように、翻訳に関連するISO規格がSC5だけでなくTC37の他の分科会で管理されている場合もありますので、ファイル形式に携わる仕事をしている翻訳支援ツール開発者の方には、これらの分科会にも調査の網を拡げることをおすすめします。

参考情報

日本翻訳ジャーナルでこれまでに掲載したISO規格に関連する記事の一覧です。

No.267 (2013年9/10月号)特集「ISO17100の衝撃」

知らなければ世界から取り残される「翻訳の国際常識」...<http://journal.jtf.jp/special/id=148>
インタビュー「ISO17100は翻訳業界をどう変えるか？」...<http://journal.jtf.jp/special/id=223>

No.280 (2015年11/12月号)特集「言語サービスの国際規格」

「何でも教えてキカク」今さら聞けない基本知識—おさらい編...<http://journal.jtf.jp/special/id=511>
「2015年ISO/TC37/SC5日本・松江総会参加報告」...<http://journal.jtf.jp/special/id=512>

連載記事「何でも教えてキカク」

第2回 ISO17100 認証取得に必要な準備...No.283 (2016年5/6月号) のPDFをダウンロードしてご覧ください。
第3回 ISO17100の審査の概要と流れ...No.284 (2016年7/8月号) のPDFをダウンロードしてご覧ください。
第4回 ISO17100から見た世界の翻訳規格...No.285 (2016年9/10月号) のPDFをダウンロードしてご覧ください。

続・翻訳者のための 作戦会議室

第4回

翻訳とはなにか ～足元を見直そう～

「翻訳とは何か」という問題

翻訳フォーラムでは、90年代以来数限りない議論が行われてきた。理由は単純で、同じ《翻訳》でも分野や仕事場所が異なると「ところ変われば品変わる」で仕事の内容が異なるため、「自分の常識は、人の非常識」になってしまうからだ。そんななかで、繰り返し議論されてきた問題がある。「翻訳とは何か」、「翻訳とは何をやる作業なのか」といった基本中の基本の事からだ。

実は、こうした問題が議論されることは、あまりない。というのも、翻訳というのは、「そこ」に翻訳されるべき原文があったり、「そこ」に翻訳という仕事があったりするから行われるわけで、「どのように」という側面は議論の対象になりやすいけれども、「翻訳とは何か」という基本問題が、「そこ」という場面を離れて独立に議論される必要性というのはほとんどないからだ。

もっとも、「翻訳とは何か」(あ

るいは「翻訳というのは可能なのか」といった議論が繰り返される現場というのはあって、大学などのアカデミズムの現場がそうだろう。でも、こうした場での議論は、基本的には「学術翻訳」という、(分野によって違いがあるとはいえ) 限定された場面でのあれこれが前提とされがちだという点で限界がある。(ちなみに、筆者は複数分野の学術翻訳も行っている。)

異分野の翻訳者たちが、自分が「寝ているときと、家事や子育ての作業をしているとき以外はいつもやっている翻訳作業」について議論したときにひとまず落ち着くのは、「原文言語を訳文言語に変換するのが翻訳。あとは分野ごとに違う」、あるいは通訳との違いを考慮した「原文言語で書かれた文章を訳文言語で書かれた文章に変換するのが翻訳」といったあたりだ。だがそれでは、手話についてどう考えるのかという原理的な問題、さらには中高生の宿題や機械翻訳との区別をどうつけるのかといった問題までが出てきてしまう。そこで、「翻訳とは何をやる作業なのか」に立ち戻っての議論が重ねられることになった。

「絵が見えてきてから訳す」

ヒントは、勉強会にあった。異分野の参加者が訳文を出し合う勉強会では、訳文の巧拙や適否以前に、「どの訳文に書かれていることが本当なのだろう」という事態さえ起きたからだ。冗談のように引き合いに出されたのは、芥川龍之介の『藪の中』(ある光景について見たと称するものたちが語る内容が、どれも異なるという物語)だった。

訳文がそこまで異なるというのは、これは原文から読み取った内容に違いがあったということで、「翻訳は《読み》が勝負」、「読めていないことは訳せない」といった考えが共有されるとともに、(文の構造のみに頼るのではなく)「絵が見えてから訳しはじめる」という(あたりまえの)事がらも、確認の意味をこめてよく言われるようになった。

そこから展開してきたのが、翻訳時には、原文を読んだときに見える「絵」と、訳文を読んだときに見える「絵」をなるべく一致させるという議論だ。この「絵」は、読み進むにつれて場面やロジックがどのように展開するかという側面に着目して、「動画」と考えてもかまわない。こうしたかたちで視覚的観点を導入することで、場全体を俯瞰的に見ているのか、描出対象を至近距離から見ているのかといった描写視点の問題も取り扱えるようになった。

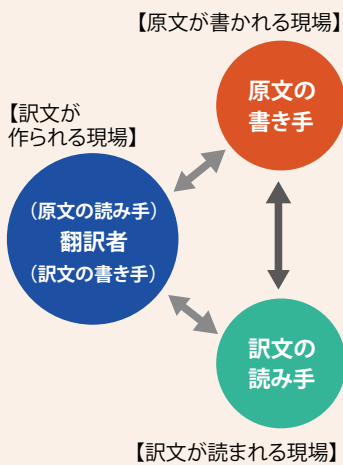
《翻訳》をめぐる3つの現場

しかし、ほどなく、これでは不十分だということに気づくことになる。同じ文章を内容を理解したうえで読んで、人によって思い浮かべる「絵」が違うのだ。たとえば、入門的文章をその分野に詳しい翻訳者が読んだときに描く絵は、詳しくすぎることがある。詳しくても一向に構わないのだが、そのまま気づかずに訳すと妙なことになる。ついでに言うと、きっちり集中

して読むのか、ささっと読み流すのかによっても、描かれる「絵」は違ってくる。

そもそも、文章というのは、書く方も、誰がどんなふうを読むかを念頭におきつつ書いている。文章には想定読者がいて、書き手は想定読者のことを考えながら書いているわけだ。文章には、文章が書かれる現場と読まれる現場がある。

訳文の方も同じことで、訳文には、訳文が作られる現場だけでなく、訳文が読まれる現場がある。「読みたい/読んでほしい」人がいるからこそ、翻訳という仕事が発生しているということだ。



つまり、「文章(原文)が書かれる現場」と、「文章(訳文)が読まれる現場」とのはざまで仕事をするのが翻訳者なのであって、翻訳において要請されるのは、原文の想定読者が原文を読んだときに思い浮かべる「絵」と、訳文の想定読者が訳文を読んだときに思い浮かべる「絵」が一致するということだ。

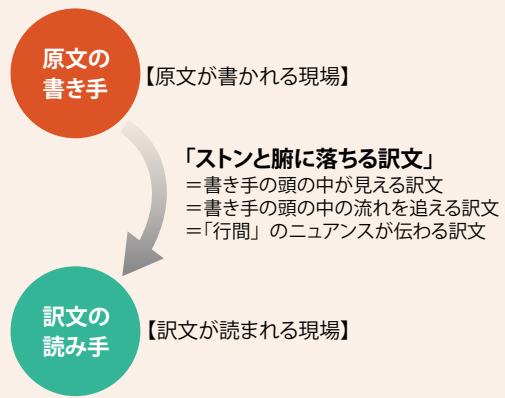
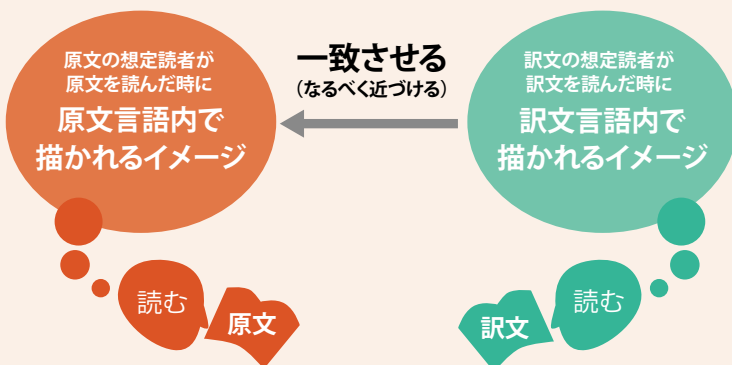
「現場が3つある」のが《翻訳》

別の言い方をすると、翻訳には3つの現場がある。「原文が書かれる現場」と、「翻訳が行われる現場」と、「訳文が読まれ・使われる」現場だ。そして、「翻訳が行われる現場」において、「原文が書かれる現場」と「訳文が読まれ・使われる現場」とを念頭においた訳出作業が行われてはじめて、訳文の読み手から、原文の書き手の頭のなかが見えてくる——つまりストンと腑に落ちる——訳文ができるわけだ。

考えてみれば、「原文が書かれる現場」と「原文から訳文へと訳される現場」と「訳文が読まれる現場」が基本的に異なるというのは、《翻訳》の大きな特徴なのかもしれない(この点については、通訳の場合と比較してみるとわかりやすい)。

あたりまえが通用しない《翻訳》

こうしたことは、あたりまえに思えるかもしれない。だが、それがあたりまえではないのが《翻訳》という営為の宿命だ。通常の文章は、書き手がさまざまなことを思い浮かべながら書いたものを、読み手が直接読むのに対し、翻訳の場合には、翻訳者が原文を訳文に訳す——語順を含め、文法構造も語彙体系もまるで異なる言語に訳す——というステップが介在するからだ。であればこそ、何があたりまえなのかを確認しておくことが必要になるわけだ。



「あたりまえ」といえばもう一点。以上で述べてきたような「あたりまえ」の事からは、翻訳の各分野で、それぞれ文脈に即して展開される。原文が視覚化・整理された「絵」にしても、文脈に応じて種々雑多だ。物語の場面が次々と展開されていく「アニメーション」のような「絵」はもちろんのこと、フローチャート、マトリックス、相関図などが想起される場合も、序破急、起承転結、三部形式のような展開形式についての「絵」が想起される場合もある。こうした事情については、来る11月29日に開催される「第26回JTF翻訳祭」の「翻訳とはなにか:足元を見直そう」のセッションでも検討する予定だ。

Writer Profile

高橋 さきの
Takahashi Sakino



特許翻訳、学術翻訳・執筆、国立大学非常勤講師。1984年東京大学農学系研究科修士課程修了。特許事務所を経て1987年独立。共著に『翻訳のレッスン』、『プロが教える技術翻訳のスキル』(以上講談社)、『リーディングス戦後日本の思想水脈』(岩波書店)など。訳書にシルヴィア『できる研究者の論文生産術—どうすれば「たくさん」書けるのか』(講談社)、ハラウエイ『猿と女とサイボーグ』、『犬と人が出会うとき』(青土社)など。翻訳フォーラム共同主宰。

メディカル翻訳 最前線

第4回 がんの今を知る

早川 威士

株式会社アスカコーポレーション コンサルタント
大阪大学大学院医学系研究科

日本のがんによる死亡者数は年々増加の一途を辿り、2014年には36万人以上の方が亡くなっています。最も死亡率が高いのは肺がんであり、大腸がん、膵がんなども増加傾向にあります。一方で、かつて代表的ながんであった胃がんや、肝臓がんは治療法の開発により減少傾向となっています。医療を支える技術や研究の進歩によりがんそのものの死亡率（年齢調整後）は横ばいに抑えられていますが、依然人類にとって脅威となる疾患であることは間違いありません。

このようにがんは致死的な疾患のひとつですが、がん細胞が発生した時点で疾患になるわけではなく、生物学的観点では、がんという状態に至るには数々のプロセスが経由されています。細胞ががん化する最初のステップはDNAの損傷です。DNAは遺伝情報を司る二重らせん状の構造体であり、遺伝子をその中に格納しています。外部からの化学物質や電磁波に曝されることでDNAに傷が入ると、通常は細胞の修復機能により事なきを得ますが、低い確率で損傷がそのままになり、遺伝子に異常を引き

起こします。この異常な遺伝子（がん遺伝子）や、がんを抑制する正常遺伝子の機能不全により、細胞増殖の命令（シグナル）が常に出たままの状態になります。正常な細胞では増殖シグナルは抑制され、数が増えすぎないように細胞死（アポトーシス）が起こりますが、シグナルが活性化されているとこれらの機構が働かず、細胞は際限なく増殖を続けることになります。

がん細胞が増殖するのはよく知られているところですが、それだけでがん化するわけではありません。良性の腫瘍でも細胞増殖は起こりますが、人体に致命的な影響は与えません。がんは悪性腫瘍とも呼ばれますが、悪性化したがん細胞は増殖するだけでなく、アポトーシスを免れ、また自分の領域を次第に広げていったり（浸潤）、転移する性質を持つようになります。悪性化のプロセスはいまだにわかっていない部分も多いのですが、いくつかの段階を経ていることが近年の研究で明らかになっています。

がんがもっとも発生しやすい上皮細胞は、体の表面に組織される細胞で、基底膜と呼ばれる膜の上に整然と層をなしています。上皮細胞は細胞同士も細胞間接着によって固定されており、自由に動いたり形を変えることはできません。しかし、がん化した上皮細胞は、上皮間葉移行（EMT）という性質の転換によってこの束縛から逃れ、自由に動き回るようになります。がん細胞は発生した臓器（原発巣）で増殖を続け、しだいに基底膜や血管を突破して、血流に乗って体内を移動するようになります。そしてまた血管を経て別の組織に入り込み、そこで増殖を行います。これが転移のプロセスです。転移はがん細胞にとっても困難な現象であり、多くの場合は血管内や転移先の組織で免疫の働きにより駆逐されます。しかしわずかな確率で、免疫を回避して転移先での生存に成功したがん細胞は、そこで新たな病巣（コロニー）を形成するようになります。いったん転移が起こると根治的治療は困難になり、治療戦略の転換を迫られることとなります。

がんの主な治療法には外科手術、放射線治療、薬物療法が挙げられ、がんの3大療法と呼ばれています。外科手術は現在のところ唯一がんの根治を実現できる治療法であり、がんの進展に応じて罹患臓器（の一部）を切除します。手術によりどうしても臓器機能が損なわれてしまうため、成功してもリハビリテーションが必要になることもあります。腫瘍を小さくして手術を容易にしたり（術前化学療法）、術後に残存する腫瘍を取り払う（術後化学療法）ため、薬物療法を併用することがあります。近年では身体への負担が少ない手術（低侵襲手術）も進歩し、切開領域を少なくするため内視鏡などを用いた手技が開発されています。また、da Vinciなどの手術ロボットも導入されており、技術革新が進んでいます。

放射線治療は患部に放射線を照射してがん細胞を死滅させる治療法です。もっとも古くから用いられた治療法のひとつで、手術、薬物療法と組み合わせられることも多いです。従来から用いられてきた光子線（X線、γ線など）に加えて、近年では粒子線（重粒子線、陽子線）も使用されるようになってきました。大規模な設備が必要であり、まだ研究段階にある治療法ですが、よりがん細胞への有効性が高い治療法として期待されています。また、照射の精度を高めるための技術開発も進んでおり、強度変調（IMRT）や画像誘導（IGRT）などの技術によって、周辺組織へのダメージを抑えながら的確にがんを攻撃することが可能になっています。

薬物療法も、医薬品開発と医学研究の進展によって近年大きく変わってきました。従来は細胞傷害性薬剤が広く用いられてきました。これらの薬剤は細胞増殖が速いというがん細胞の特徴を利用しています。このためがん細胞への高い殺傷性を示すのですが、同時に増殖能の高い正常細胞にも作用してしまい、それが副作用として現れます。近年新薬が次々に登場している分子標的薬は、がん特有の異常な分子を標的にして、その機能を阻害することで治療を行う薬剤です。例えばEGFRチロシンキナーゼ阻害剤は、細胞表面のEGFR（上皮成長因子受容体）に結合することで、細胞増殖シグナルをストップさせます。この働きによりがん細胞は増殖できなくなります。これらの分子標的薬は、特定の遺伝子変異を持つ人に有効性を持つことが多く、遺伝子検査とセットで用いられます。最近の話題としては、がん免疫療法の治療薬が登場し注目されています。この治療薬は免疫チェックポイント阻害剤と呼ばれ、それ自体が細胞を攻撃するのではなく、免疫からの攻撃を逃れていたがん細胞の回

避機構をブロックして、T細胞などの免疫細胞に攻撃させるという仕組みを持っています。画期的な治療法として今後の発展が望まれています。同時に高額な治療薬であることから医療費の問題も浮上しており、どのような患者に有効なのかを見定める研究が必要になっています。

最新の研究では、がん細胞の中には細胞増殖のもととなるがん幹細胞が存在することや、がんの生存を助けるミクロな環境（微小環境）があることがわかってきており、こうした研究に基づく治療法の開発が待たれます。また、がん細胞内のRNAやエクソソームに着目した、新たな作用機序を持つ薬剤の研究も進められています。前述の免疫療法と併せて、がんを制圧するための取り組みが、世界的に日夜続けられています。

一方で、がんは遺伝子の異常が根本的な原因ですが、同時に食生活などの環境も大きくその成因に関わっています。すなわち、がんは慢性疾患のひとつであり、生活習慣や環境を改善することでリスクを低減させることが可能です。国際がん研究機関（IARC）は、化学物質や環境中の物質について発がん性のリスクを勧告しており、これらを生活の中で吸引したり、食物として摂取することを可能な限り避けることががんの抑制につながると考えられます。また、生活習慣の中では特に喫煙と多量飲酒ががんのリスク増加に関係していることが知られており、がんへの影響

に限定せず、節度のある生活を送ることが健康の増進につながるということがわかってきています。これらの知見を受けて、WHOをはじめ世界的にがん対策が進められており、日本でもがん対策基本法のもと、医療だけでなく行政レベルでの取り組みが進められています。

がん研究は特に2000年代以降急速に進んでいます。新規抗がん剤の開発を始め、翻訳業務に必要とされる知識もこのような最新の知見を反映したのですが、現役で仕事をしている翻訳者にとっては、新しい研究成果について知る機会が限られています。本稿では、そのフォローアップのために開講した「がんの今を知る勉強会」で取り扱ったトピックを抜粋してご紹介しました。



Writer Profile

早川 威士

Hayakawa Takeshi



2006年アスカコーポレーション入社。QC、プロジェクトマネージャー等を経て現職。2016年より、アカデミア向けサービスの開発を目指して大阪大学で医学研究に携わる。



いまさらながらの・・・

CATツール★超基本

加藤 じゅんこ

Memsourse Marketing Manager

第4回 翻訳支援ツールと品質

前々回は翻訳メモリについて、そして前回は課金率についてご紹介しました。

翻訳支援ツールは翻訳メモリを使って翻訳の効率化をはかるツール、というイメージが強くあります。効率化＝金額の削減と時間の短縮です。

今回は翻訳支援ツールのもうひとつの良い効果、「品質アップのための機能」についてご紹介したいと思います。翻訳支援ツールは、お金や時間の節約と、品質アップの両方を可能にします。

表現の統一

翻訳メモリを使えば、以前行った翻訳や、他の人の翻訳と表現を合わせることができます。

たとえば大きなプロジェクトの場合、最初にプロジェクト全体を解析し、もし異なるファイル間で似た表現が多いものがあれば、一番基本となる部分から翻訳していきます。そのときに用語も登録していきます。最初のファイルの翻訳後にできる翻訳メモリ・用語集を使用して、他のファイルの翻訳も進めていきます。

翻訳支援ツールでは、表示される一致率を変更することができます。通常は60%～70%以上が参考となる場合が多いとされています。^{*1} 前回ご紹介した課金率でも、案件によりますが、翻訳メモリとの一致率が70%未満のセグメントについては課金率が適用されず、100%の翻訳料金が支払われる場合が多くあります。^{*2} (図1)

ですが翻訳メモリとの一致率自体は低い場合でも、部分的なフレーズや表現はメモリを参考にすることができます。これによって、翻訳する人が異なる場合にも、表現の統一をはかることができます。

*1 翻訳メモリの一貫率につきましては、JTFジャーナル No.284 2016年6月/7月号 本連載「翻訳メモリってどんなもの？」をご参照ください。

*2 課金率につきましては、JTFジャーナル No.285 2016年8月/9月号 本連載「課金率ってどんなもの？」をご参照ください。

用語集の作成と活用

翻訳支援ツールを使用する場合、翻訳メモリと同様に大事なのが用語集です。翻訳メモリはセグメント単位の辞書(データベース)、用語集は単語単位の辞書です。メモリと異なり、翻訳をすると自動的に出来るものではありません。

もしエクセルなどの形で用語集があらかじめある場合は、翻訳支援ツール内にインポートが可能です。

既存の用語集がない場合に「用語集を翻訳支援ツールでさくっと自動で作成できませんか?」というご質問をされることがあります。たしかに、翻訳支援ツールのなかには頻度や文字数などを基準に用語を抽出してくれる機能がついたものがあり、案件によっては、用語集作成を楽にはしてくれます。ただそのまま活用できる夢のツールとまではいかず、やはり人の目で見えていく必要がでてきてしまいます。

通常は、翻訳済み原稿から、あるいは翻訳をしながら、人力で用語集を作成していくこととなります。セグメントごとに原稿と翻訳が対になった翻訳支援ツールの画面上で、用語を登録して用語集を作成していきます。人力ではありますが、原稿と翻訳2か所から用語をとってくるよりも、対になった画面から用語を登録していくほうが作成しやすいというメリットはあ

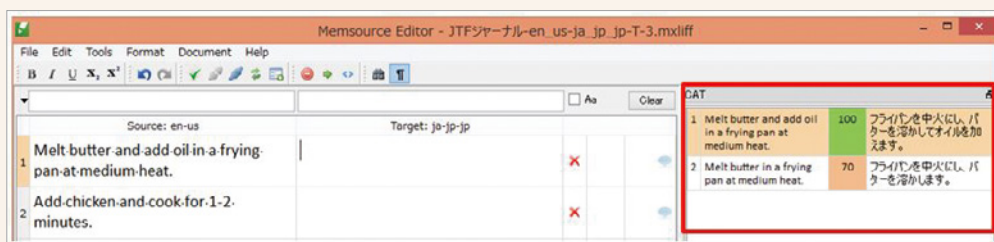


図1：翻訳メモリの一貫率表示例

ります。

また、通常用語以外、使ってほしくない禁止用語として用語を登録できたりもします。備考などの登録も可能です。(図2)

用語集を使用して翻訳をする、翻訳メモリと同様、該当するセグメントを翻訳する際に登録用語の存在を知らせてくれます。(図3)

さらに、用語集をもとに最後にチェックをかけ、指定した用語を使っていない箇所を検出することができます。次の項でお伝えします。

品質チェック機能

特にそれ以前に品質に関するツールを使用されていなかった場合、翻訳支援ツールを導入してから「ケアレスミスが減った!」というお話を聞くことがあります。その理由は、多くの翻訳支援ツールには品質チェック機能がついているからです。

品質には、2種類あります。ひとつは、人間が判断する品質。もうひとつは、機械的な判断が可能な品質。たとえば、翻訳の上手さは、人が判断するものです。ですが、数字のミスや、用語集の用語を使っているかどうかの検出は、機械的な判断が可能です。

むしろ人がチェックすると見落とす場合が多くありますし、エネルギーと時間も要します。ツールであれば、そういったミスを一瞬でチェックをしてくれます。(図4)

(図5)

翻訳後の文書に文字数制限がある場合は、文字数を超えた場合に検出してくれる、といった機能があるものもあります。ユーザーインターフェースの翻訳などに活用できる機能です。

「品質」の定義は広範囲なものです。ぱっと見たときに、他の人から指摘されやすいミスは、こういった数字ミスや用語ミス・文字数超え。間違っていることがはっきりしている分、即座にミスとして指摘されやすい部分と言えます

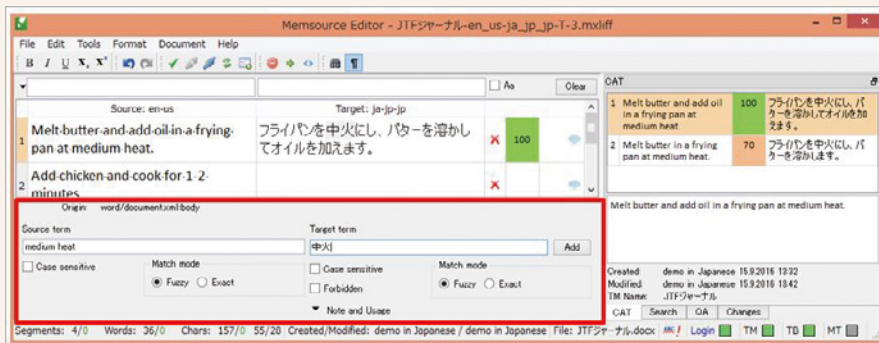


図2: 用語の登録画面例

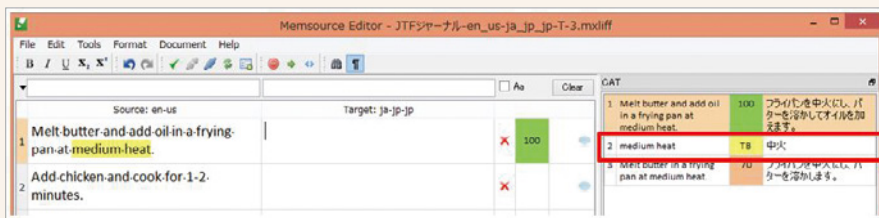


図3: 用語の表示例

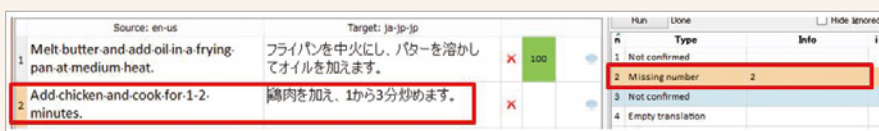


図4: 原文と訳文で数字が異なる場合の検出例

* 原文が「1-2」となっているところ、訳文では「1から3」となっています。右側のQAチェック結果では、原文の「2」という数字が訳文に入っていないことを示しています。



図5: 用語集の用語を使用していない場合の検出例

す。翻訳支援ツールはこういったミスを減らしてくれます。

なお、今回ご紹介した機能以外にも、ツールによっては他にも様々な品質チェック機能がついています。また、外部のチェックツールとの連携が可能であるものもあります。

さいごに- 品質について思うこと

今回は、翻訳支援ツールを使用した際の品質面での効果についてお伝えしました。

翻訳支援ツール以外でも言われることではありますが、ツールやテクノロジーは人の仕事を奪うものではなく、本来は、人の時間を増やしてくれるものです。

翻訳の品質チェックは、この考え方が見事に当てはまる作業のひとつだと思います。ケアレスミス

のチェックは、人よりもツールのほうが得意な作業のひとつです。そういったものは、とことんツールに頼る。その分人は、人にしか判断できない部分の品質に力をそぐことで、翻訳の品質をアップさせることができます。

Writer Profile



加藤 じゅんこ
Kato Junko

Memsources(メムソース) Marketing Manager (Japan)
ブログ: <http://blog.memsources.com/ja/>
早稲田大学大学院文学研究科西洋史専修修士
外資系医療機器の会社にて広報担当。突発的にWebデザインを学び、翻訳学校に通った後、翻訳会社に転職。トレーニング・サポートツール開発・業務フロー改善といった様々な角度からCATツールに携わる。
2015年8月よりMemsources Certified Trainerとしてコンサルティングサービスを実施、2016年2月より現職。地元をいたまて、「もう一度英語をやる」大人向け英文法講座のんびり楽しく開催中。

帽子屋の辞典十夜

高橋 聡

IT・技術翻訳者、JTF理事

第4回

「COBUILD

～コーパスから生まれた学習英英」

最後に取り上げる学習英英辞典は、COBUILDです。

正式名称は、Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary (以下、「Collins COBUILD」)。COBUILDの部分を全大文字で書くことが多いのは、Collinsとバーミンガム大学が共同で開発したデータベース、**Collins Birmingham University International Language Database**の頭字語だからです。このデータベースから生まれたCollins Corpus (Bank of English) というコーパス(初版の時点で約2,000万語、現在は約6億5,000万語)が、Collins COBUILDを作成する土台となりました。

初版の出版が1987年。電子的なコーパスから辞書を作るというのは、今では当たり前になりましたが、この当時では画期的なことでした。辞書編集の段階で作った例文ではなく、すべての例文が生きた現代の英語から採用されています。この辺の歴史を書いた序文に当たる内容がCollins COBUILDにはあまり収録されていないのですが、Collinsのサイトに簡単な歴史が書かれています (<http://bit.ly/2dkoGQE>)

ところで、辞書は、版つまり出版年を確認しておくことが大切です。版が新しくなれば新語が増えたり語義・語釈や用例が変わったりするのですから当然でしょう。これまでの連載でも、辞書は必ず版を付けて紹介してきました。Collins COBUILDは、Amazonなどでちょっと調べてみるとわかりますが、なぜか版が明記されていないものがあるので、注意が必要です。

Logophileに登録して串刺し検索できるのは、

『Collins コウビルド英英辞典』CD-ROM付 (<http://amzn.to/2cJcHtg>)

で、これは**第5版**です。ただし、このアプリケーションを起動しても、ウィンドウには「Collins COBUILD Dictionary on CD-ROM 2006」と表示されるだけで、ヘルプを見ても何版かという情報はまったくありません。これはちょっといただけません。



PASORAMA機能で人気のあった電子辞書端末DF-X10001 (SII)などに収録されているのは、明記されていないのですが、凡例のIntroductionを見ると

Welcome to the sixth edition of the Cobuild Advanced Dictionary for learners of English.

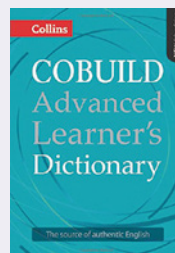
と書かれているので、**第6版**であることがわかります。第5版に載っていないcarbon footprintなどが、第6版には載っています。

これより新しい版も出ています。

『Collins コウビルド英英辞典』(<http://amzn.to/2dzsGAY>)。これが**第7版**に当たりますが、CD-ROMは付属せず、かわりにアプリを使えるようになっています。

『Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary』(<http://amzn.to/2dzsahu>)

これが**第8版**ですが、電子媒体はKindle版しかないようです。



学習英英辞典なので、OxfordやLongmanと同じく、オンライン版も充実しています。

<http://www.collinsdictionary.com/>一般辞書と学習辞書の区別がないように見えますが、何か単語を引いたら、少し下にスクロールしてみると、

XXX for learners of English powered by COBUILD

と書かれたセクションが表れます。これが学習英英の内容です。その下を見ると、追加の例文、引いた単語の使用頻度 (Google Ngram Viewerのような機能) なども見ることができます。

なお、AdvancedとかLearner'sとかが付いていない一般英英辞書も

出ていますので、購入の際には注意してください。

Collins COBUILDは、単語の説明が(非英語ネイティブにも)わかりやすい、というのが定評です。その理由は、他の学習英英と並べてみると明らかです。たとえば、hackという動詞を引いてみます。

to push or cut your way through thick trees or bushes [LDOCE]
If you hack something or hack at it, you cut it with strong, rough strokes using a sharp tool such as an axe or knife. [COBUILD]

このように、フレーズではなく必ず文(フルセンテンス)として説明されているのが大きい特長です。hack something or hack at itとなっているので、語釈が文法・語法の解説も兼ねています。この場合、他動詞として使うか、自動詞としてatを伴うということがわかります。文なので、コロケーションなども自然と読み取れます。しかも、この例の後半のように、説明がとても具体的です。

文法の情報は、独自のラベルで表されています。だいたい見ただ目で理解できるように工夫されていますが、多少は慣れが必要かもしれません。たとえば、representという動詞を引くと、3~6の語義に、

VERB V n
V-PASSIVE be adv V-ed, be V-ed
V-LINK V n
VERB no cont, V n

というラベルがあります。V nはいちばん普通に目的語をとる形。V-PASSIVEは「受動態で使う」ということで、be V-edが普通の「be+過去分詞」ですが、be adv V-edともあるので副詞はbe動詞と過去分詞の間に入れるということもわかります。V-LINKというのは連結動詞、つまりbe動詞やbecome、appearのように補語をとる自動詞です(この語義、重要です)。no

rep|re|sent
represent represents representing represented

3 VERB V n
If you **represent** your country or town in a competition or sports event, you take part in it on behalf of the country or town where you live.

4 V-PASSIVE be adv V-ed, be V-ed
If a group of people or things **is well represented** in a particular activity or in a particular place, a lot of them can be found there.

5 V-LINK V n
If you say that something **represents** a change, achievement, or victory, you mean that it is a change, achievement, or victory. (FORMAL or WRITTEN)

6 VERB no cont, V n
If a sign or symbol **represents** something, it is accepted as meaning that thing.
= symbolize

contは、continuousつまり進行形をとらないという意味。だいたいラベルを知らなくても例文でわかるようになっていますが、no contなどは知らないと役に立ちません。

文法情報などの解説は、製品版ならヘルプで調べられます。オンライン版では、残念ながらこの情報が見つかりません。ありがたいことに、有料サイトのジャパンナレッジで、COBUILDの凡例は見る事ができます(内容はCOBUILD米語辞典なのですが、文法情報は共通です)。

電子データには、土台となったコーパスBank of Englishから抽出した用例(約500万例)を参照できるWordBankという機能があります。使い方は、環境によって違います。単体アプリケーションの場合、[Dictionary]と[WordBank]のボタンで切り替えます。上のrepresentの場合、第5版では579件もの用例があります。DF-X10001の本体側では、COBUILDを呼び出したうえで「ワードバンク」に切り替えてから検索します。同じDF-X10001でも、PASORAMA上では[用例検索]に切り替えることとなりますが、このときは全辞書から用例が順次表示され、WordBankの用例(WBと表示される)はかなり後にならないと出てきません。あまり実用的とは言え

ないでしょう。Logophileに登録した場合は、WordBankが辞書本体とは別のタイトルとして認識され、全文検索でWordBankの内容がヒットします。WordBankに関しては、やはり単体アプリケーションがいちばん使いやすいようです。

OALD、LDOCE、COBUILDの三大学習英英。好みで使っていていいと思いますが、翻訳中に調べて、いちばんピンとくることが多いのは、個人的にはCOBUILDです。学習英英をまずひとつ入手するなら、COBUILDをおすすめします。



Writer Profile



高橋 聡
Takahashi Akira

CG以前の特撮と帽子をこよなく愛する実務翻訳者。翻訳学校講師。学習塾講師と雑多翻訳の二足のわらじ生活を約10年、ローカライズ系翻訳会社の社内翻訳者生活を約8年経たのち、2007年にフリーランスに。現在はIT・テクニカル文書全般の翻訳を手がけつつ、翻訳学校や各種SNSの翻訳者コミュニティに出没。最近では、翻訳者が使う辞書環境の研究が個人的なテーマになっている。ブログ「禿頭帽子屋の独語妄言」
<http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/>



翻訳品質のランチボックス

西野 竜太郎

翻訳者／コンサルタント

第4回 TAUS DQF の評価手法

本連載の第3回では、従来から用いられているエラーベース評価手法に対する批判があることを紹介しました。批判とは主に以下の2点です。

- **文章レベルに対する意識が薄い**
語や文のレベルばかり見ていて文章全体に対する意識が薄い。「木を見て森を見ず」への批判
- **さまざまな種類の文書に対応できない**
異なる種類のコンテンツに同じ評価基準を用いている。例えば特許文書とマーケティング資料は違う基準で評価すべき。「one-size-fits-all」への批判

2012年にTAUS (Translation Automation User Society) という団体は、とりわけ後者の批判に応える形で「DQF」を提唱しました。DQFとはDynamic Quality Frameworkの略です。コンテンツの種類といった変数に応じて「動的に」評価手法を変えるため、Dynamicと名付けられました。また、DQFは評価手法だけではなくツールやナレッジベースも含めた

大きな「枠組み」なのでFrameworkとされています。

品質評価の流れ

DQFでは以下の2ステップで品質評価を実施します。

1. コンテンツ・プロファイリングを実施
2. 推奨された手法から選択し、品質評価を実施

コンテンツ・プロファイリングの実施方法

DQFで特徴的なのが最初のステップで実施する「コンテンツ・プロファイリング」でしょう。こういった種類のコンテンツであるかをウェブ上のツールに入力すると、そのコンテンツに合った評価手法がいくつか推奨されます。

図1がツールの画面です(注1)。ここでは4つの変数、つまりContent Category (コンテンツのカテゴリー)、Regulated Industry (法規制がある業界か)、Internal Content (社内用か)、Channel (誰から誰へか)を指定します。そのうち最初のContent Categoryには、「Audio/Video Content」、「Training Material」、「Marketing Material」などの種類があります。こういった種類に応じて推奨される手法が変わってくるのです。ここでは例として、図1のようにユーザー・インターフェイス (User Interface Text) の翻訳を評価すると仮定し、実行してみます。

Content Category :	<input type="radio"/> Audio/Video Content	<input type="radio"/> Training Material
	<input type="radio"/> Marketing Material	<input type="radio"/> User Documentation
	<input type="radio"/> Online Help	<input checked="" type="radio"/> User Interface Text
	<input type="radio"/> Social Media	<input type="radio"/> Website Content
Regulated Industry :	<input type="radio"/> Yes	<input checked="" type="radio"/> No
Internal Content :	<input type="radio"/> Yes	<input checked="" type="radio"/> No
Channel :	<input type="radio"/> Business-to-Business	
	<input checked="" type="radio"/> Business-to-Consumer	
	<input type="radio"/> Consumer-to-Consumer	
<input type="button" value="RECOMMEND QE MODELS"/>		

図1: コンテンツ・プロファイリング用ツールの画面

すると、図2のような結果が表示されます(注2)。図中の赤枠部分を見るとUsability Evaluation(ユーザビリティ評価)やError Typology(エラー評価)が推奨されていることが分かります。図では切れていますが、ほかに数項目が提示されています。ソフトウェアのユーザー・インターフェイスでは「使いやすさ」が重要になります。そのためユーザー・インターフェイスの翻訳では、ユーザビリティ評価が推奨項目に入っているのです。

コンテンツ・プロファイリングを実行した後は、推奨された手法から評価者が何をを使うか選択し、実際に評価を実施することになります(個々の手法の実施方法については解説しません)。

推奨される手法

上記の例ではユーザビリティ評価やエラー評価が推奨されていました。ほかにどのような項目が推奨され得るのでしょうか。DQFの基になった論文(注3)では合計8つの手法が提示されています。頻繁に使われる手法も、特定の状況でしか使われない手法もあります。

- **Adherence to regulatory instruments (法規制の順守)**
訳文が法規制を順守しているか
- **Usability (ユーザビリティ)**
使いやすさが向上するような訳文か
- **Error typology (エラー評価)**
誤訳、用語集違反、スタイル違反などがないか
- **Adequacy/Fluency (妥当性/流暢性)**
訳文は原文の意味を伝えているか/訳文として優れているか

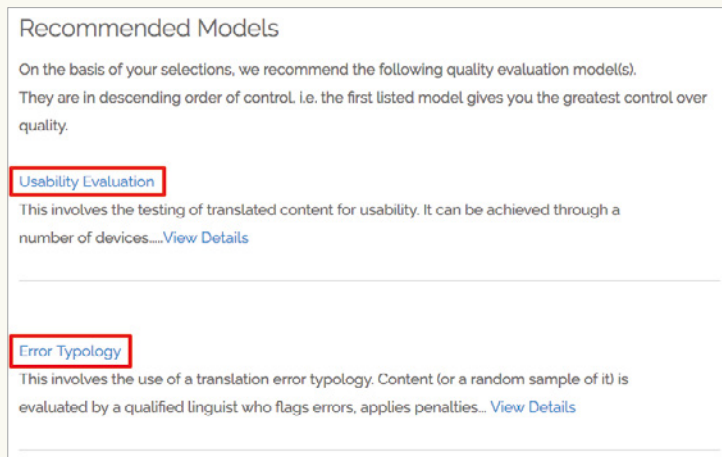


図2: コンテンツ・プロファイリングの実施結果例

- **Community-based evaluation (コミュニティ評価)**
ユーザー・コミュニティによる対訳での評価
- **Readability (リーダビリティ)**
読みやすい訳文か。リーダビリティ指標や読者アンケートで評価
- **Content sentiment rating (感情レーティング)**
「いいね!」数などによる評価
- **Customer feedback (顧客フィードバック)**
売上、サポートへの電話数、苦情数などで評価

項目は8つありますが、若干内容が重複しているように思える部分もあります。2016年9月現在、DQFのコンテンツ・プロファイリング用ツールはベータ版という位置付けです。今後の改善が予定されています。

DQFの新しさ

従来はエラーベース評価手法が主流でしたが、「one-size-fits-all」という批判がありました。DQFはコンテンツの種類に応じて動的に

評価手法を変えることで、その批判に応えようとしています。DQFが推奨する評価手法には、従来から用いられてきたエラー評価に加え、ユーザビリティ評価、リーダビリティ評価、感情レーティングなどがあります。つまり、DQFにおいてエラー評価は数ある評価手法のうちの1つであるという位置付けです。エラー評価を相対化したという点がDQFの新しさでしょう。

DQFではさまざまな評価手法が推奨されるものの、例えばユーザビリティ評価を毎回の納品で実施していると、コストがかかり過ぎます。やはり実務で簡便に利用できるという点でエラーベースの評価は有効です。そのため、DQFを提供しているTAUSもエラー評価方法の開発と改善に力を入れています。次回はそのDQFのエラー評価方法について紹介します。

Writer Profile

西野 竜太郎

Nishino Ryutaro



合同会社グローバルデザイン研究所代表社員。TAUS Representative、JTF標準スタイルガイド検討委員も務める。情報システム学修士(専門職)。著書『アプリケーションをつくる英語』で第4回ブクログ大賞(電子書籍部門)を受賞。雑誌記事に「Learning localization in context」(MultiLingual誌 2013年12月号)など。趣味はジャズ鑑賞とアニメ鑑賞。

注1: ツールは無料で誰でもアクセス可能。URLは <https://evaluate.taus.net/evaluate/content-profiling/profile-your-content> (2016-09-11 現在)

注2: TAUSによると、手法は品質を制御しやすい順に提示される。

注3: O'Brien, S. (2012). Towards a dynamic quality evaluation model for translation. The Journal of Specialised Translation, (17).

翻訳者のための Word 挿入 入門

新田 順也

ブログ「みんなのワードマクロ」管理人

第4回 編集作業の効率化

翻訳文を編集するとき、まずは正確に文字列を選択することから始まります。そして、選択した文字列に対して、文字の修正や文字書式の変更など具体的な処理をします。

今回の記事では、文字列の選択方法と書式の設定方法についていくつかのコツを紹介します。

1. 文字列の選択

2つの方法で文字列を選択します。1つ目はキーボードで実行する方法、2つ目はマウスを使う方法です。

1-1. キーボード

[Shift]キーを押しながら矢印キーの左右を押してください。選択範囲の右端が左右に移動して文字列が選択されます。これが文字選択の基本です。

文書全体の体裁に合わせて

文書全体の体裁に合わせて

[Ctrl]を押しながら矢印キーの左右を押すと、単語単位でカーソル

が移動するのをご存知ですか？なので、今回は[Ctrl]+[Shift]を同時に押しながら左右の矢印キーを押してみます。すると、選択範囲の末尾が単語単位で移動します。なお、この「単語」はWordが認識する「単語」ですので、不自然なこともあります。

文書全体の体裁に合わせて

文書全体の体裁に合わせて

以下の記事で詳しく図説しました。
<http://www.wordvbalab.com/word/2083/>

1-2. マウス

マウスを使うとさらに高度な文字選択ができます。

マウスの左ボタンをクリックしてマウスをドラッグ（マウスの左ボタンを押さえたままマウスを移動）すると、1文字ずつ文字列を選択できます。これが基本操作です。

今回はダブルクリックです。Wordの文字上でダブルクリックしてください。すると、カーソル位置の「単語」が選択されます。

[挿入] タブのギャラリーには、

[挿入] タブのギャラリーには、

さらにこの状態でドラッグをすると、あら不思議！選択範囲が単語単位で変化します。

トリプルクリックで、カーソル位置の段落が選択されます。段落末尾の改行記号も選択されます。このままマウスをドラッグすると段落単位で選択範囲が変化します。

[挿入] タブのギャラリーには、文書全体まれています。これらのギャラリーを使用や、その他の文書パーツを挿入できます。体裁に合わせて調整されます。

では、今度は文字上ではなく、余白をクリックしてみましょう。クリック1回で、クリックした箇所の行が選択されます。

[挿入] タブのギャラリーまれています。これらのギャラリー、その他の文書パーツを

次に、余白でダブルクリックをします。すると、段落が選択されます。余白でトリプルクリックをすると、文書全体が選択されます。

1-3. キーボードとマウス

次に、キーボードとマウスを組み合わせて文字列を選択してみます。[Alt]キーを押しながら以下の矢印のようにマウスをドラッグして文字列を選択します。以下のよう通常ではあり得ない形で選択できます。

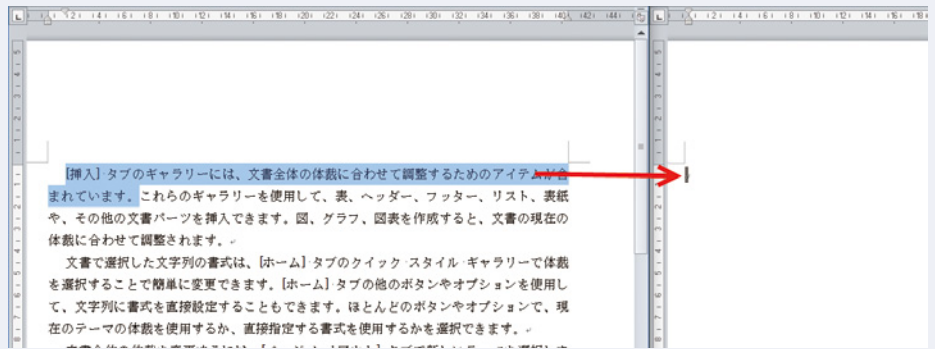
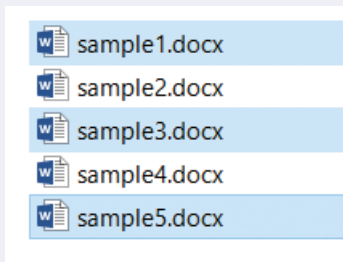
テーマ - 考えよう、翻訳のことへ
日時 - 2016年11月29日(火)
場所 - アルカディア市ヶ谷

今回は[Ctrl]を押しながらマウスで文字選択をします。図のように、複数箇所を同時に選択できるので

タブのギャラリーには、文書全体の体裁に合わせて調整されます。表、他の文書パーツを挿入できます。図、グラフ

選択した文字列の書式は、[ホーム] タブのク

複数の文字の書式を変更するときに便利です。エクスプローラーでも同様のことができます。[Ctrl]を押しながらファイルをクリックすると、複数のファイルを同時に選択できます。



画面1：別のファイルヘドラッグで移動

2. 処理の実行

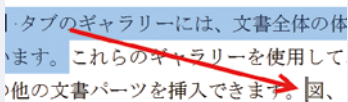
処理にはいくつか種類があります。たとえば、文字列を移動したり、文字列の書式を変更したりします。

2-1. 文字列のコピー／移動

文字列の移動でよく使われるのが、「コピー」、「カット」、「貼り付け」です。選択されている文字列を移動させるのであれば「カット」と「貼り付け」です。[検索と置換]ダイアログボックスに文字入力するときにも使えます。ショートカットキーが便利なのでぜひ活用してください。

コピー：[Ctrl]+[C]
カット：[Ctrl]+[X]
貼り付け：[Ctrl]+[V]

マウスでもコピーや移動ができます。対象の文字列をドラッグするだけです。



ドラッグすると、カーソルが縞模様になります。左ボタンを放すと文字列が移動します。

コピーの場合には、[Ctrl]キーを押しながら文字列をドラッグします。この場合、ポインターに「+」マークが表示されます。ドラッグで文字列を移動・コピーする技は、

同一のファイル内でも別々のファイル間でも使えます。(画面1)

このように、この記事で紹介したドラッグアンドドロップの方法や文字列の選択方法は他のアプリケーションでも利用できる場合があります。ぜひ試してください。

もしWordで上記のドラッグアンドドロップ編集ができない場合、オプション設定を変更します。

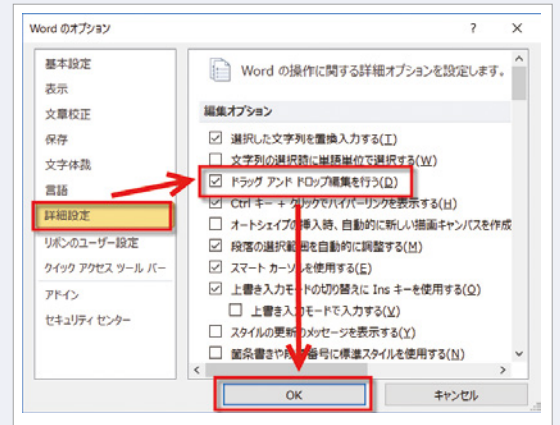
[Alt]→[T]→[O]の順番にキーを押して「オプション」ダイアログボックスを開きます。画面2のとおり、[詳細設定]を表示して、該当するチェックをオンにしてください。

2-2. 文字列の書式設定

Wordでは、文字列の「書式」のコピー／貼り付けができます。まず、書式が設定されている文字列を選択して、書式をコピーします。その後、この書式を適用する文字列を選択してから、書式を貼り付けるのです。複数の書式(フォントサイズ、太字、フォント名など)を一度に設定する場合に便利です。もちろん、ショートカットキーで実行します。

コピー：[Ctrl] + [Shift] + [C]
貼り付け：[Ctrl] + [Shift] + [V]

最後に便利なショートカットキーを1つ。書式を設定したり文字列を移動やコピーした際に、前回の修正箇所を再確認する場合があります。[Shift] + [F5]のショートカットキーでカーソルを移動でき



画面2：オプション設定

ます。編集箇所「GO」と覚えられます。3つ前の操作位置まで記憶しています。

今回の記事では、「文字列の選択」と「編集処理」を別々に説明しました。実は、[検索と置換]ダイアログボックスを使うと、「文字列の選択」と「処理」を同時に行えます。この方法は次回紹介します。

Writer Profile

新田 順也
Nitta Junya



特許翻訳者、Wordアドイン開発者、Wordのセミナー講師。エンジニアリング会社、特許事務所を経て独立。ブログで数百のWordマクロを公開。翻訳をする傍ら、翻訳会社、マニュアル制作会社、電機メーカー、特許事務所等々のクライアントにWordのカスタマイズやWordマクロ活用のコンサルティングを実施。2011年から毎年Microsoft MVPをWord部門で受賞。代表ソフトは、Wordで動く翻訳チェックソフト「色deチェック」。

■ブログ「みんなのワードマクロ」
<http://www.wordvalab.com/>

機械翻訳の近未来

本間 奨

日本特許翻訳株式会社 代表取締役

第4回 統計的機械翻訳(続き)

5 機械翻訳の課題 主語の誤り

【原文】引用文献 P87
In the embodiment shown the arrangement includes upper and lower pairs of paddles 17, 18 mounted tiltably to the column 11.

【人手翻訳】

図示された実施態様において、本装置は、角度を変えることができるように柱 11 に取り付けられたパドル 17、18 の上下 2 対を含む。

【機械翻訳】

配置を示された実施例の中で、コラム 11 へ傾けられるようにマウン

トされたかい 17 および 18 の上部および面對偶を含んでいます。

【Google 翻訳】

構成を示す実施形態は、パドル 17 の上下対を含むので、18 は列 11 に傾動可能に取り付けられています。

【SMT+MTPlus】

図示の実施形態では、装置は、コラム 11 に傾斜可能に取り付けられたパドル 17、18 の上部対と下部対を含む。

【解説】 arrangement について、人手翻訳では、「本装置」が主語であり明示される。一方、Google 翻訳では主語が「装置」であるにもかかわらず、「配置」「構成」と誤訳かつ主語としてではなく shown の目的語としている。SMT+MTPlus では、人手翻訳同様に、「装置」と訳出し、主語で明示される。

6 SMT の課題 訳語の揺らぎ

Google 翻訳や NICT の SMT では、訳語の決定に統計的手法を用いているため、例えば同一の化合物名の訳語が、周りの原文によって揺らぐ場合がある。このような揺らぎは、訳語選択には、ヒット件数の観点から BLEU 値を増大する可能性があり必ずしも欠点とはいえないが、厳密な訳語が必要な化合物名(化合物表記)や元素名、数字の誤り、記号の誤りなどが許されないケースでは問題となる場合がある。単純に化合物名単独で見た場

表 1: 化合物名の翻訳比較 (赤字部分は誤訳箇所を示す)

化合物名 (単独)	【Google 翻訳】	【SMT】	【SMT+MTPlus】
halide	ハロゲン化物	ハロゲン化	ハロゲン化物
diaminopyrimidine	ジアミノピリミジン	ジアミノピリミジン	ジアミノピリミジン
2,4-diaminopyrimidine	2,4-ジアミノ	2,4-ジアミノピリミジン	2,4-ジアミノピリミジン
ethylpyrimidin	メチルピリミジン	ethylpyrimidin	エチルピリミジン
trimesitylboroxin	トリメチルボロキシ	trimesitylboroxin	トリメチルボロキシ

表 2: 化合物表記の翻訳比較例 1 (赤字部分は誤訳箇所を示す)

US9000003B2 【請求項 2】 【化合物 A】	5-(3'-(3''-(2,4-diamino-6-ethylpyrimidin-5-yloxy)propoxy)phenyl)-6-ethylpyrimidine-2,4-diamine
【Google 翻訳】	5-(3'-(3''-(2,4-ジアミノ-6-メチルピリミジン-5-イルオキシ)プロポキシ)フェニル)-6-メチルピリミジン-2,4-ジアミン
【SMT】	5-(3'-(3''(2,4-ジアミノ-6-ethylpyrimidin-5-イルオキシ)プロポキシ)フェニル)-6-エチルピリミジン-2,4-ジアミン
【SMT+MTPlus】	5-(3'-(3''-(2,4-ジアミノ-6-エチルピリミジン-5-イルオキシ)プロポキシ)フェニル)-6-エチルピリミジン-2,4-ジアミン

表 3: 化合物表記の翻訳比較例 2 (赤字部分は誤訳箇所を示す)

US9000003B2 【請求項 2】 【化合物 A】	5-(4'-(3''-(4'''-(2,4-diamino-6-ethylpyrimidin-5-yl)phenoxy)propoxy)phenyl)-6-ethylpyrimidine-2,4-diamine
【Google 翻訳】	5-(4'-(3''-(4'''-(2,4-diamino-6-methylpyrimidin-5-yl)phenyl)propoxy)phenyl)-6-methylpyrimidine-2,4-diamine
【SMT】	5-(4'-(3''-(4'''-(2,4-ジアミノ-6-ethylpyrimidin-5-イル)フェノキシ)プロポキシ)フェニル)-6-エチルピリミジン-2,4-ジアミン
【SMT+MTPlus】	5-(4'-(3''-(4'''-(2,4-ジアミノ-6-エチルピリミジン-5-イル)フェノキシ)プロポキシ)フェニル)-6-エチルピリミジン-2,4-ジアミン

合、Google 翻訳ではエチルピリミジンがメチルピリミジンとなり、トリメシチルポロキシンが、トリメチルポロキシンとなるなど、1文字または数文字のみの誤訳であるが**致命的な誤訳**が発生している。以下【SMT】と記載した翻訳システムはNICTエンジンそのままのケースである。(表1)

ハイフンやダッシュ記号、括弧などが組み合わされた化合物表記の翻訳比較例を(表2)(表3)に示す。

【解説】【Google 翻訳】はエチルピリミジンをメチルピリミジンと誤訳、トリメシチルポロキシンをトリメチルポロキシンと誤訳している。diaminopyrimidineでは翻訳可能でも2,4-など数値等を伴う化合物表記では誤訳になる。括弧が3つ以上続く場合は、化合物表記全体が未訳となるケースもみられた。【SMT】ではエチルピリミジンやトリメシチルポロキシンが未訳になる。またハイフン、ダッシュが欠落する【SMT+MTPlus】では「化合物翻訳システム」と連携したMTPlusにより、本文中の化合物表記を抽出し、化合物表記の場合、その全体を置換するようにしたため、化合物名に加えハイフン、ダッシュ、括弧を含む化合物表記の誤りがでない仕組みとしている。

7 まとめ

公報の文対で翻訳エンジンを構築した統計的機械翻訳は、訳語の適切性の観点で見ると、複数あるいは複合語でみた訳語選択は特許情報検索システムのヒット件数を最大化する傾向があり、本報告の最新のNICT SMTは特許検索用として十分に実用的な水準に達しているとされている。(2016.1.29. no.280 37 tokugikon) それに対して、人手翻訳では、前後の文脈や微妙なニュアンスを考慮して訳語を選定することが可能であり、SMTとは訳語選定のロジックが大きく異なる。

一方、SMTは統計的手法を用いているため、厳密な訳語が必要とされる化合物表記や元素名、数値の誤りなどで課題がある。Google 翻訳でみられる化合物表記の1文字ないし数文字の誤りの推定原因は、スペルの近い発生頻度の高い訳語で置き換えられているようである。正解に近い訳語の取り違えがあると、原文との詳細なつき合わせがあつて初めて誤りが判明する。このような詳細なつき合わせが公報全ての化合物表記(多い場合1公報で500を超える)で必要になるとすると、翻訳の意義が大きく損なわれてしまう。同様に未訳語や前述の取り違えの場合、検索システム用データとして用いると頻度の少ない化合物名での検索は検索漏れになってしまう。従って、SMTには化合物表記などの厳密な訳語を決定する仕組みとして、(膨大な)化合物表記辞書の搭載や翻訳ロジックを組み込むことが必要となる。このようなSMTに前処理(プリエディット)と後処理(ポストエディット)を加えた翻訳システム(図1)がすでに実用化されて、翻訳サービスが提供されている。

本報告にあたり、化合物表記翻訳システム構築については(一社)化学情報協会、翻訳環境構築については株式会社みらい翻訳、株式会社プロパティのご協力をいただきました。上記3社のご協力を深く感謝いたします。

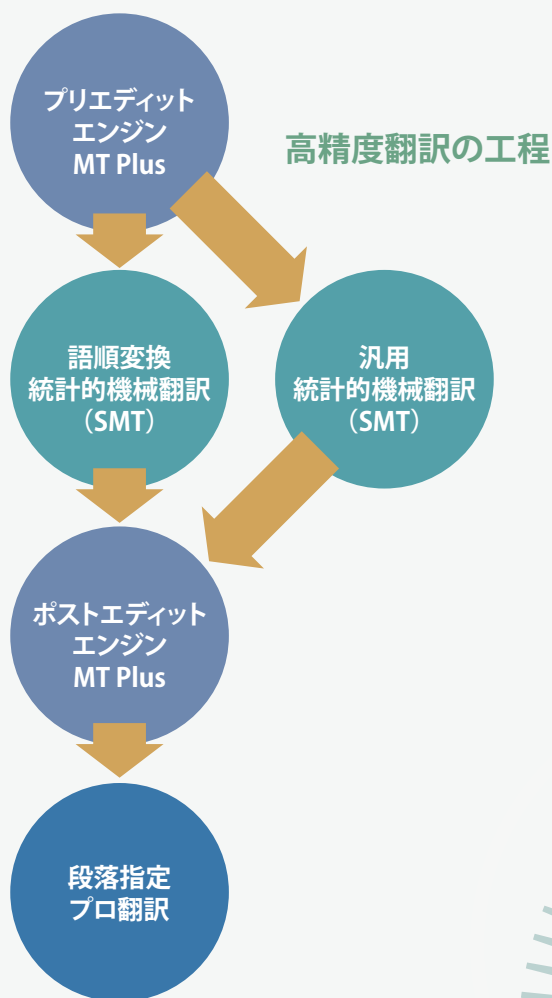


図1: SMTの前処理と後処理を加えた翻訳システム (<http://npat.co.jp>)

Writer Profile

本間 奨

Honma Susumu



富士電機株式会社で感光ドラムの研究開発を行った後、富士ゼロックス株式会社で、有機感光体の開発・生産に携わり、2000年から特許情報検索システムDocuPatの事業立ち上げ・推進をおこない、その後日本発明資料にて語順変換統計的機械翻訳エンジンを用いた英日・中日翻訳システムMT Plusを開発、特許庁中国実案抄録翻訳事業に採用され、現在100万件以上J-PlatPatで利用されている。

2015年2月に日本特許翻訳株式会社を設立、昨年9月から大手企業中心に外国公報の多言語高精度機械翻訳サービスを提供している。最近では、pdfやワードの科学技術文献をレイアウト通りに翻訳するドキュメント翻訳サービスを開始した。

翻訳を取りまく環境は様変わりしていきます。ときには戸惑うこともあるでしょう。でも、「翻訳と私」という関係は変わらないのではないのでしょうか。どんなに環境が変わろうとも、自分の軸がしっかりと根づいていたら、日々変わっていく風景にも心を感わされることはないかもしれません。初心に戻ったり、立ち止まったり、未来に思いを馳せたり、「翻訳のこと」、一緒に考えてみませんか? 「なぜ翻訳をするようになったのか」今を見据えると、きっと未来が見えてきます。翻訳と皆さんのこと、教えてください。

コラムオーナー 矢能 千秋

Where there is a will, there is a way.

翻訳と私

第3回

翻訳を仕事にするまで

この夏、本コラムを書いてみませんか?と2度目のお声がけをいただきました。ちょうど今年前半に訳していた書籍が刊行され、ひと息ついてこれからのことを考えていたときです。会社勤めをやめ、「縁あって巡ってきた仕事をやりながら方向性を固めていこう」と翻訳業に専念して4年半が過ぎ、医療機器からインテリア、雑誌記事に書籍まで、さまざまな仕事をさせてもらいましたが、この先どんな仕事をしていきたいのか、そのために何をすべきなのか一度見直したいという気持ちがありました。そんな迷いの途中にある自分に何が書けるのだろうかという気持ちでしたが、お引き受けすることにしたのは、リード文にある次の言葉に引かれたからです。「なぜ翻訳をするようになったのか」今を見据えると、きっと未来が見えてきます——。そこで、この機会をこれから進むべき道を考える足がかりにさせてもらおうと考えたのです。

石垣 賀子

英日翻訳者

翻訳にたどりつくまで

分野が何であれ、翻訳を仕事にするきっかけになる要素にはいくつかありそうです。本が好き、英語が好き、書くのが得意、仕事の専門分野があった、職場でたまたま任せられた、など。私もいくつかあてはまります。読むこと書くことが好きで、本はもちろん、お菓子の箱に書かれたコピー文をながめながら食べるのが好きな子どもでしたし、作文などをほめられることが多く、もしかしたら得意なのかもしれないと感じていました。また、英語に興味を持ったのを出発点に、高校でフランス語部に入って高校生との文通に心躍らせ、大学では異文化間コミュニケーションを専攻し、外国の言葉と文化、社会への関心はつねにありました。海外を一人で旅する楽しさを知ったのもこのころです。

そんな背景から、最初の就職活動ではトラベルライターなどを夢見たものの、狭き門なうえにそもそもなり方もわからず、一般企業に勤めました。が、営業事務というチームサポート的な仕事は向いていないようだと思いつき、2年

ほどで退職。名目は「留学のため」でしたが、具体的なプランはありません。「自分ができそうなこと、どちらかという好きで得意なことを生かして、何らかの形で人の役に立てる仕事を見つけなくては」と考えた末にたどりついたのが翻訳でした。チームではなく一人でできる仕事に見えた点もびつたりに思えました。

出版と実務の違いもあやしい漠然とした目標でしたが、「将来翻訳の仕事をするため」という大義名分を胸に米中西部へ渡ったのが2000年。英語の文体や語源、社会方言、社会言語学など、言葉の特性と文化背景の両面から言語をとらえる授業の数々は興味深いものでした。

卒業後、大きな転機になったのが、ニューヨークの日系新聞社で1年ほど働いたことです。アルバイトでしたが、イベントの取材記事や広告記事を書いたり人の文章を校正したり、初めて「書くこと」でお金をもらえたのでした。米国社会の多様性を映し出す絵本に関心を持ったのもこのころで、親の離婚や多様な文化背景をもつ子どもを描いた絵本を紹介するコラムを連載させてもらったのもよい経験でした。

回り道もやがて仕事に

帰国前後は怖いもの知らずで、前述のような絵本を出版社に持ち込んでみたりもしましたが、やがて今すぐに翻訳で食べていくのは現実的には難しいと考え、縁あってスウェーデンの医療機器メーカーで薬事申請という聞きなれない仕事につくことに。決め手になったのは「自社の医療機器について1冊本を書くような仕事」という説明でした。書く仕事ならいいかも、と始めた仕事は7年続き、その間に翻訳学校へ通いました。なかでも翻訳という作業の本質にことん向き合う夏目大先生の授業には何期か通い、多くを学びました。

会社勤めをしながら週末にリーディングや短い実務翻訳を受ける生活をし、最初の訳書（児童書）を出す機会にも恵まれました。が、「会社の仕事があって大きな翻訳の仕事を受けられない」という言い訳ともやもやを断ち切るため、退職して一步を踏み出しました。

時間ができると、下訳や前職つながりの医療機器の仕事など、少しずつ仕事の幅が広がっていきました。なかでも大きな転機になったのは、夏目先生のご紹介でリーディングをした縁で訳すことになった『いつまでも美しく』（早川書房）でした。ほぼ実績のない私にやらせてくださった編集者の方の勇氣に応えなければというプレッシャーは甚大でしたが、インドのスラムに生きる人々を描いた評価の高い社会派ノンフィクションに関われたのは大きな喜びでした。その後、同じ版元からタイプの違う本を何冊かやらせていただいています。本が世に出ていくことへの責任の重さを感じる緊張感は変わりません。また、英文を徹底的に読み込み妥協せず言葉を練る姿勢を教えてくださいました、翻訳教室の金子靖先生にご紹介いただいたインテリア記事の仕事は、20年来の海外インテリア雑誌好きにとっては夢のような仕事です。雑誌媒体の仕事で各国の社会や文化を伝える生の文章にふれるのも喜びです。



『いつまでも美しく』
（早川書房、2014年）

何をめざすか

書籍のような長いスパンの仕事、記事のような短距離走の仕事、名前が出る仕事、出ない仕事など、さまざまな仕事をするうち、どんな仕事なら楽しいのか、やりがいを感じるのか、評価していただけるのか、または逆に苦しいのかが少しずつ見えてきました。私にとって翻訳は夢やあこがれではなく、「自分にできること、できれば好きなことや得意なことを生かして人の役に立てる、食べていくための手段」を探した結果たどりついた仕事でした。どんな仕事も楽ではないぶん、自分に向いていること、興味と熱意を持てることは、長く続けていくために大切だと思っています。

組織に属さずに仕事をするようになり、「一度質の低い仕事をすれば次はない」「引き受けたら自分一人の責任でやるしかない」など、責任の重さを感じない日はありません。一方、プレッシャーは大きい反面、向いていない仕事をするストレスは少ないとも感じています。

対価をいただく以上、駆け出しで自信がないなどと依頼主に公言するべきではないのは当然だと思います。が、自分の力量をもどかしく思うことは多々あり、自信と余裕に満ちている、とはなかなかいきません。しばらく仕事をしたあと、課題が見えてきてあらためて学び直したくなったという話はよく聞きますが、まさにそんな気持ちです。流れに導かれるようにここまでできましたが、この先も翻訳を仕事にしていくためには、学び開拓する姿勢は不可欠だと思います。

まだ数冊だけの経験ですが、書籍翻訳の仕事で楽しいのが、初校を前に担当編集の方とその本についてあれこれ感想を話しあうプロセスです。特にゲラのやりとりをする段階では、「よい本をつくる」という目的を共有するチームの一

員であることに謙虚な気持ちと喜びを感じます。もともと「チームでなく一人で仕事をしたい」と翻訳にたどりついた自分がそう感じるとは面白いものです。

振り返るとさまざまな選択の積み重ねで今があり、翻訳とは直接関係ない専攻や仕事など、一見回り道に見える道のりも、結局はどれも今につながっていると思えます。今夏に刊行された訳書『〈パワーポーズ〉が最高の自分を創る』にも、こんなくだりがありました。「初めは何を目指しているのかさえはっきりわからないときでも、一歩ずつ踏み出すうちに自分が行くべきところへたどりつける」と。



『〈パワーポーズ〉が最高の自分を創る』
（早川書房、2016年）

Writer Profile

石垣 賀子

Ishigaki Noriko



静岡県生まれ。立命館大学産業社会学部、ウイスコンシン大学（英語言語学専攻）卒業。帰国後、外資系医療機器メーカー勤務のかたわら翻訳の勉強を始め、2012年からフリーランスで翻訳業。出版翻訳と実務翻訳の両方を手がける。実務翻訳は医療機器と薬事からスタートし、雑誌やウェブ記事、住宅・インテリア関連などにシフトしつつさらに開拓中。将来は年に1か月旅に出られる翻訳生活を目指す。

MT
Machine
Translation

PE
Post-
editing

TM
Translation
Memory

翻訳テクノロジーを学ぶ

第4回

～機械翻訳編

その1～

山田 優

関西大学 外国語学部 / 外国語教育学研究科 准教授

連載「翻訳テクノロジーを学ぶ」の第4回は、機械翻訳について考えます。10年以上前にデビューした統計的機械翻訳は、対訳データがたまればたまるほど翻訳品質が良くなる、ということで発展してきましたが、最近では更なる成長を目指して「ディープラーニング」や「ニューラルネットワーク学習」などの技術も併用されています。

本稿は「機械翻訳は不気味の谷を超えたか」と題し、機械翻訳の現状と未来について考えます。なお、機械翻訳の基本的仕組みについては、『翻訳テクノロジーを学ぶ』映像教材 (<http://www.apple-eye.com/ttedu>) の「機械翻訳編」をご覧ください。

不気味の谷

下の写真の女子高生 Saya をご存知ですか。実はこの美少女は CG なんです (TELYUKA さん作¹⁾)。

この CG は、ネット上では「不気味の谷」を超えた作品として話題になっています。

不気味の谷とは、機械やロボットの外見や動作が人間に似てくると、あるレベルに到達した瞬間から、人はそれに嫌悪感を抱くようになるという現象です。機械やロボットに対する人間の感情的反応の高低をグラフ化すると、一部に谷ができることから「不気味の谷現象」と名付けられました (森政弘・東京工業大学名誉教授が1970

年に提唱)²。

しかし、グラフをみて分かるように、似ている度合いがさらに進み、人間とほぼ変わらなくなると再び好印象に転じます。CG 美少女 Saya は、この「不気味の谷」を超えた CG として話題になっているという訳です。

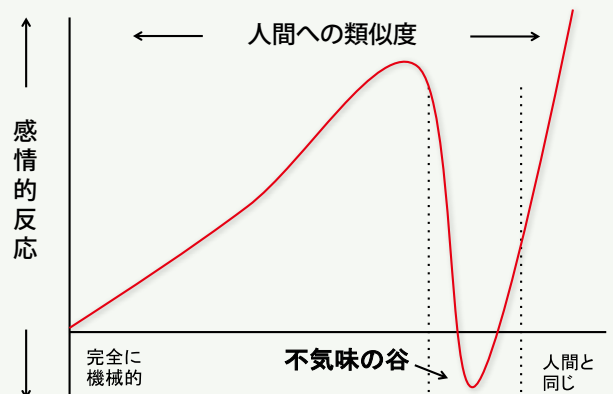
機械翻訳は不気味の谷を超えたか？

これを機械翻訳に当てはめてみましょう。現状の機械翻訳の精度は、自然な言葉に近いですが、不完全な結果を出すことから、不気味の谷にある、と言えるかもしれません (証拠はありません)。いや、不気味の谷にすら達していない、という意見もあるでしょう。いずれにしても、現状の機械翻訳は不気味の谷を超えていないだろうと思います。

では、現状の機械翻訳の品質は、グラフのどの辺りにあるのでしょうか？この疑問は、機械翻訳の受容性 (acceptability) と関係します。

大学生を対象にした筆者の調査では「今の機械翻訳を100点満点で評価すると何点くらい？」と質問したら、45点くらいとの回答を得ました (山田・立見・武田, 2016)。この点数を大学の単位を取る基準と同じように解釈すれば、45点は「不可」なので落第になります。

調査後、授業で学生にポストエディットをしてもらい、また同じように「機械翻訳は何点だった？」と質問をすると、今度は60点くらいまで上がります。60点は、大学の



成績でギリギリ「可」に相当するレベルです。評価が上がる理由は、学生がポストエディットを経験すると、機械翻訳の訳が意外と使えるのに気づくからだと考えます。

他の調査もあります。(株)みらい翻訳は、機械翻訳のTOEICスコアを調べました(Etoh, 2016)。英日翻訳での実験で、異なるTOEICスコアの英語能力の人(人間)を用意して、和文英訳してもらい、それを機械翻訳と比較しました。その結果、機械翻訳はTOEIC 655点相当であることが分かりました。

日本人のTOEICスコア平均が512点、英語が堪能と言われる人は900点以上になりますから、機械翻訳の実力がだいたい分かります。プロ翻訳者としては未熟でしょうが、社会人で英語力以外の専門知識(例えば工学エンジニアなど)があれば650点でも社内では評価されるそうですから(OKwave参照³⁾)、現状の機械翻訳はそのくらいなのでしょう。

このような評価が「不気味の谷」の領域内にあるのかは分かりませんが、一定の受容性(好印象)をもって受け入れられているのは事実であると言えます。

人工知能が向かう先

話は変わり、最近よく耳にする人工知能ですが、「将来、人工知能に取って代わられる職業」という話題も関心を集めています。東大の松尾豊准教授の予測では、2025年までには人工知能は翻訳を代行できるようになるそうです。翻訳で生計を立てている人にとっては迷惑な話ですが、そんな未来を見たい気持ちも分かります。

【註】

- 1: <http://www.telyuka.com/>
- 2: <https://ja.wikipedia.org/wiki/不気味の谷現象>
- 3: <http://okwave.jp/qa/q4731714.html/>

【参考文献】

- [1] Etoh, M. (2016). Recent Progress in Machine Translation between Japanese and Others. TAUS Tokyo Executive Conference.
- [2] Sakai, K. (2005) Language Acquisition and Brain Development. Science, 310. 815-819.
- [3] 山田優・立見みどり・武田珂代子(2016)「翻訳テクノロジーを学ぶ」：教材オンライン化の現状と展望。言語処理学会 第22回年次大会 発表論文集。pp. 953-956.

人工知能の技術を支えるディープラーニングやニューラルネットワーク学習の仕組みについては、次回に述べるとして、そもそも人工知能が目指すところは「超人的AI」なのか「人間的AI」のどちらなのでしょう。この区別は、前者を「弱いAI」後者を「強いAI」と換言できます。

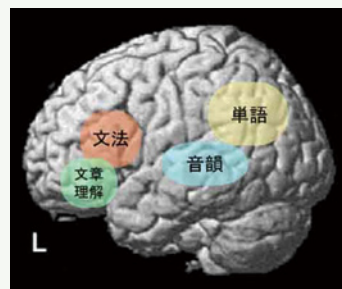
医療現場においては、人工知能に膨大な論文を学習させて、難病患者の診断をさせることに成功しました。これは、一人の医師の診断能力を超えた「超人的AI」と言えるわけですが、総合的な人間の仕事がこなせるAIではないので「弱いAI」となります。特定の仕事に関しては超人的能力を発揮するにもかかわらず「弱いAI」というのは矛盾に感じられますが、そういうことになっています。

では人工知能の翻訳は？もし前者の「超人的AI」が翻訳を行うなら、筆者の意見に過ぎませんが、この時に我々は「不気味の谷」を体験するのではないかと思うのです。それは、やはり言語というものが総合的な人間の営為に根付いているものだからです。逆の言い方をすれば、不気味の谷を超える機械翻訳を実現するためには、人間の脳をシミュレートできる「強いAI」が必要だと考えます。

そんなAIが実現可能なのかと言えば、分かりませんが、最近の脳機能研究が示唆を与えてくれているのも事実です。

Sakai(2005)によれば、複雑な言語処理を行う脳内の特定の領域はほぼ同定できており、その領域(文法処理領域)が母語(L1)と外国語(L2)の処理の両方を担っているとされます。すなわち、翻訳作業の

大半は、同領域で行われている可能性が高いということです。



さらに下図が示すように、語学力の高い人ほど、ほとんどの処理を同領域のみで行っており(写真の下「熟達度の高い学生」)、これにより「翻訳が楽になる」「自動化できる」と感じられるのです。逆に語学力の低い人は、脳内全体を活性化してしまうので、認知負荷も高くなってしまいます(写真の上「熟達度の低い大学生」)。



まだわからないことばかりですし、現時点での人工知能技術の自然言語処理への応用は初期段階に過ぎません。それでも未来に向けて着実に進歩を遂げています。今回は、技術的な詳細を含め、もう少し詳しく機械翻訳をみていきたいと思えます。

Writer Profile

山田 優

Yamada Masaru



立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程修了。博士(異文化コミュニケーション学/翻訳通訳学)。関西大学外国語学部/外国語教育学研究科准教授。日本通訳翻訳学会(JAITS)理事。社内通訳者・実務翻訳者を経て、最近は翻訳通訳研究に没頭する。研究の関心は、翻訳テクノロジー論(MTPEなど)、翻訳プロセス研究(TPR)、翻訳通訳教育論(TILT、TI Literacy)など。

WysiWyg

WysiWyg は設立時より、品質をもっと大切に考え、科学的に正確な、そして、お客様の望む翻訳を提供し続けてきました。

医学翻訳教室「アンセクレツォ」の開講登録型派遣サイト「WW スタッフング」の立ち上げ

WysiWyg はこれから新しい分野への挑戦を続けます。ぜひ弊社 HP をご覧ください。

株式会社ウイズウィグ

<http://www.wysiwyg.co.jp/>

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-21-2 京橋第九長岡ビル6階
TEL 03-5566-1669 FAX 03-5566-4808



SUNFLARE Academy

サン・フレアアカデミー

サン・フレア アカデミーは、翻訳会社サン・フレアが母体の翻訳スクール。創業 45 年、50 以上の言語とあらゆる産業分野に対応する翻訳サービスで 1000 社以上の顧客から高い評価を得ているサン・フレアにおいて、高品質の翻訳を提供しているのは登録翻訳者。その約 8 割が、サン・フレア アカデミーから巣立った人材です。

サン・フレア アカデミーは翻訳実務での豊富なノウハウと現場のニーズを活かし、次世代の産業翻訳業界を担う優秀な翻訳者の養成に力を注いでいます。

株式会社サン・フレア/サン・フレア アカデミー

<http://www.sunflare.com/academy/>

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-7 新宿ヒロセビル2階
TEL 03-6675-3965 FAX 03-6675-3968



TOIN

Est.1963

常にお客様のベストパートナーでありつづける

業界の黎明期とも言える 1963 年より、翻訳・ドキュメントに関わり、その時々のお客さまのお求めに合わせて、十印は変化し、成長してきました。これからもお求めに応じて変化し続けます。チャレンジ精神に溢れたフリーランス翻訳者の方を随時募集しています。

◆募集分野◆

IT 関連、半導体、機械、医薬・医療機器 他

◆募集言語◆

英日、日英、ドイツ語、中国語、韓国語 他

株式会社 十印

<http://to-in.com/ja/>

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-25-5 オーク五反田ビル
TEL 03-5759-4353 FAX 03-5759-4376



Chizai Corporation

◆フリーランス翻訳者常時募集◆

特許翻訳のリーディングカンパニー、知財コーポレーションの翻訳者になりませんか？

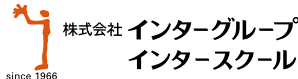
- 充実したフィードバック体制
- 顧客との直接コミュニケーション
- 学びの機会

知財コーポレーションは、翻訳者の皆様に安心して取り組んでいただける環境を提供します。高品質の翻訳を共に作り上げていきましょう。

株式会社 知財コーポレーション

<http://www.chizai.jp/>

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル7階
TEL 03-5909-1181 FAX 03-5909-1183



株式会社 インターグループ

インタースクール

『言葉のプロフェッショナル集団』インターグループは、50 年にわたる信頼と実績を持つ異文化コミュニケーションのリーディングカンパニーです。

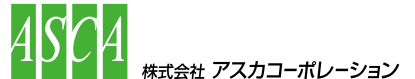
- フリーランス翻訳者募集
幾多の経験が培った“伝える能力と心”で、質の高い作品を私達と共に作り出して下さる方
- インタースクール 受講生募集
翻訳・通訳なら専門英語力が武器になる。卒業後のお仕事紹介まで。

是非弊社 HP をご覧ください。

株式会社インターグループ

<http://www.intergroup.co.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目2番5号 共同通信会館4F
TEL 03-5549-6907 FAX 03-5549-3207



株式会社 アスカコーポレーション

ASCA は「翻訳者育成」に本気です！

医薬・バイオ分野に特化したドキュメントサービスを提供。高い専門性を持つ翻訳者の育成に力を注いでいます。

- オンライン講座「ASCA Academy」
登録翻訳者の実力アップをはかるセミナーを月 1 回以上開催。多彩な講義テーマ。
- フィードバックシステム
品質評価結果を翻訳者と共有。弱点克服に◎

本気なあなたのチャレンジを待っています！

株式会社アスカコーポレーション

<http://www.asca-co.com/>

〒541-0046 大阪府中央区平野町1-8-13 平野町八千代ビル9F
TEL 06-6202-6272 FAX 06-6202-6271



MEMSOURCE

登録翻訳者の皆様に無料で使ってもらえるクラウド型翻訳支援ツール Memsource

「導入後 InDesign ファイルで 80%の時間短縮」
「生産性が 50%向上し、コストは 20%削減」

お客様からこんな効果を実感しております。

■日本語デモ・ご質問はこちらまで■

japan@memsource.com

■日本語マニュアル / ブログ / 操作説明動画■

<http://blog.memsource.com/ja/>

Memsource メムソース日本窓口

<https://www.memsource.com/ja>

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2丁目49-7 池袋パークビル1階
TEL 03-4360-5563



HONYAKU CENTER

New Standards in Translation

翻訳センターグループは、日本最大規模を誇る外国語サービスの総合サプライヤーです。

- 「世界の語学サービス会社ランキング」
5 年連続アジア第 1 位
- 2006 年、産業翻訳業界で初の株式上場
(証券コード 2483)
- 専門性の高い翻訳を提供
(特許、医薬、工業ローカライズ、金融法務)
- 翻訳以外の外国語サービスも展開
(通訳、派遣、コンベンション、MW、
外国特許出願支援、多言語コールセンター)

株式会社 翻訳センター

<http://www.honyakuctr.com/>

〒541-0056 大阪府中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL 06-6282-5010 FAX 06-6282-5018



ida

WORLD BUSINESS PARTNER
INFORMATION EVOLVED

ida はアウトバウンド&インバウンドのビジネスを、多言語翻訳をベースに貢献しています。

- 「わかりやすい世界標準の英語」をベースに多言語展開の販促ツールから観光用のパンフの仕上げまで一元管理でスムーズに対応します。
- グローバル企業様向けに、多言語 CMS 活用の WEB サイト構築をご提案、運営を行います。
- 翻訳資産を最大活用できる最新の支援ツールを運用。多様な媒体でも用語統一されます。

アイ・ディー・イー株式会社

<http://www.idanet.co.jp/>

〒530-0051 大阪府北区太融寺町1-17
TEL 06-6360-6300 FAX 06-6360-6303

「翻訳業界インデックス」 掲載募集のお知らせ

「翻訳業界インデックス」は、
翻訳業界をリードする会社やスクールを紹介する
テキストベースの広告スペースです。
翻訳者をはじめ、翻訳者を目指している方、
翻訳の依頼をお考えの方などに向け、
御社の強みを「コトバ」でアピール。
業界でのステータスアップに
ご活用ください！

販売価格

1年6号分のご契約になります。

1年契約 6万円 (税別)
(1号あたり1万円)

販売区画は、限定**36社**のみです。
なくなり次第終了とさせていただきます。
お早めにお申込みください。

サンプル見本

必要なのは
ロゴデータとPR文のみ。
広告の制作費が不要なので
リーズナブルです。

※デザイン、レイアウトの指示はできません。

ロゴ：aiまたはepsファイル
(高さ10mm以内で使用します)

PR文：1行21文字×12行以内

御社名
ウェブサイトURL
住所
電話、ファックス番号

お申込み、ご不明な点は？

貴社名
ご担当者部署/役職名
ご担当者氏名
電話番号

を明記の上、下記まで
お問い合わせください！

E-mail : info@jtf.jp
(JTF 事務局宛)

一般社団法人
JTF 日本翻訳連盟
Japan Translation Federation

JTFは翻訳に関わる企業、団体、個人の会員からなる産業翻訳の業界団体です。

MISSION

- JTFは産業翻訳の業界団体として、常に時代の変化と潮流を読み、業界の健全な成長と発展に寄与します。
- JTFは会員間の相互協力から、信頼あるプロフェッショナルなサービス提供と地位向上を目指します。
- JTFは急速に進むグローバル化の中で、会員のビジネスチャンスの拡大とJTFブランドの向上に努めます。

一般社団法人 日本翻訳連盟
<http://www.jtf.jp/>

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F
TEL. 03-6228-6607 FAX. 03-6228-6604

募集

広告募集のおしらせ

翻訳者、翻訳会社を対象とする広告や特集記事に関連する広告を随時募集しています。詳しくは

JTF事務局までお問い合わせください。

JTF事務局 : TEL 03-6228-6607

E-mail info@jtf.jp

Next Issue

翻訳の未来を考える

次号
予告

JTF

#287 2017 01/02 JOURNAL

2017年1月20日発行予定

※発行日や内容は変更になる可能性があります。

特集「第26回JTF翻訳祭」(仮題)

次号はJTF翻訳祭の特集号です。

今年のJTF翻訳祭は11月29日(火)にアルカディア市ヶ谷(私学会館)にて開催されます。

魅力あるセッションが並び、聞きたい話が同じ時間帯に重なってしまっている方のために、

JTFジャーナルでは全セッションのレポートをウェブサイトに掲載します。

ご期待ください。

Editor's note

国際標準化にかかわること

今月号で特集した国際規格はすべてISO TC37/SC5の管理下にあります。TC37は200以上あるISOの専門委員会のひとつとして「専門用語、言語、内容の情報資源」を対象としており、SC5は5つあるTC37の分科委員会のひとつです。

TC37が発行している国際規格は2016年10月の時点で46件ありますが、TCの中には「食品/Food products」(TC34) 838件、「自動車/Road vehicles」(TC22) 833件、「オートメーションシステムとインテグレーション」(TC184) 807件のように桁違いの件数の国際規格を管理している委員会も存在します。

国や地域ごとに多種多様な社会状況をかかえた現実世界に対して、日進月歩の技術革新をどのように折り合いをつけながら普及させていくのかという現代社会の重要な課題に人類が取り組む上で、ISOが担う社会的役割はきわめて重要です。

ISOの専門委員会に直接参加できる委員の人数はその規格から影響を受ける人間の人数と比べればほんのわずかですから委員の責任はとても重いわけですが、その負担もまた重いものがあります。世界各地で毎年開催される総会に出席し、何度も行なわれるウェブ会議に参加し、国内の利害関係者の意見や要望に広く耳を傾け、委員会で決定された事項をすみやかに関係者に知らせる、そんな重い負担を黙々として担ってられる国内委員の皆さんのご尽力に心から敬意を表します。

これらの負担を考えると、翻訳通訳の業界で主役ともいえるフリーランスの翻訳者や通訳者の方がISOの国内委員の役割を担うことはなかなか難しいことですが、たとえ自身が委員とならないまでも、国内委員会の活動に関心を持ち、よりよい規格が発行できるよう国際標準化にいつそのご理解とご協力をいただきたいと思います。

参考：http://www.iso.org/iso/home/standards_development/list_of_iso_technical_committees.htm

編集長 **河野 弘毅**
Kawano Hiroki

編集者からのおしらせ

田島奈々さんの連載記事「なんでも教えてキカク」は今月号はお休みします。

JTF JOURNAL

日本翻訳ジャーナル

2016年11月 / 12月号 #286

発行 ● 2016年11月11日

発行人 ● 東 郁男(会長)

編集人 ● 河野 弘毅

発行所 ● 一般社団法人 日本翻訳連盟
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-2 宝国ビル7F
TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604
info@jtf.jp <http://www.jtf.jp/>

企画・編集 ● 広報委員会

表紙撮影 ● 世良 武史

デザイン ● 中村 ヒロユキ(Charlie's HOUSE)

印刷 ● 株式会社 プリントバック



JAPAN TRANSLATION FEDERATION

memoQ

11月29日には、日本翻訳連盟の第26回
翻訳祭の「プレゼン・製品説明コーナー」
で10:45よりmemoQの製品説明を
行います：

https://www.jtf.jp/festival/festival_top.do

11月にmemoQチームが来日します！

11月28日には「memoQ day Tokyo 2016」と題した
memoQ製品説明およびユーザー交流会を開催いたします。

プログラムの詳細のおよびお申し込みは下記リンクより
お願いします：

<https://fd56776917a9778832603e1e4e.doorkeeper.jp/events/51916>

また弊社出展スペースでも製品デモを行いますの
で、ぜひお立ち寄りください。

翻訳祭の「プレゼン・製品説明コーナー」および
出展スペース（共に3階 富士の間）は無料で
ご入場いただけます。

皆様にお会いできることを楽しみにしております！

ご質問等ございましたら、三浦 (yo.miura@kilgray.com)
にお知らせください。

 MEMSOURCE

登録翻訳者の皆様に無料で使ってもらえます
最新の翻訳メモリ・用語集・作業進捗を共有できます

～まずは 30 日間無料でお試してください～

www.memsource.com/ja/pricing

日本語マニュアル・ブログ

blog.memsource.com/ja/

E-mail: japan@memsource.com TEL: 03-4360-5563

日本窓口：〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2 丁目 49-7 池袋パークビル 1 階

本社：Spalene 51, 110 00 Prague, Czech Republic (チェコ共和国プラハ)

Memsource

「第26回 JTF翻訳祭」のご案内

考えよう、翻訳のこと

～ともに歩む翻訳の未来へ～

JTF翻訳祭は今年で第26回を迎えます。今年からJTFの定款に「通訳」の2文字が刻まれ、翻訳・通訳を含めた業界団体として更なる拡大に期待が集まっています。同時に2020年の東京オリンピックの開催や訪日外国人増加による翻訳・通訳需要の拡大など、業界を取り巻く環境が次第に変化していく中、業界関係者の連携をより一層深めることが必要とされています。

JTF誕生から四半世紀が経過した今だからこそ、「翻訳のこと」を再考し、ともに歩みながら輝かしい翻訳の未来を引き寄せることが重要だと感じ、「考えよう、翻訳のこと～ともに歩む翻訳の未来へ～」を今年のテーマに掲げました。

さて、「翻訳の原点」とはどこにあるのでしょうか？人それぞれ考え方は異なりますが、私は「翻訳者」にあると思います。翻訳会社、翻訳支援ツールメーカー、ソースクライアントのいずれでも、また統計的機械翻訳の学習プロセスでも、「翻訳者」の存在があつてこそビジネスが成り立ち、技術は革新します。このような考えから、今年の企画実行委員は私を除いて全員「翻訳者」で構成されています。「翻訳者」の視点で業界関係者のバランスを配慮しながら、今までにない新しい翻訳祭を目指し、良質なコンテンツを集めるための議論を重ねてきました。

用意したのは24の講演&パネルディスカッション。翻訳プラザでは、製品のプレゼンコーナーに加え、海外を含む約40社が展示ブースで自社の製品を紹介します。見たことのないツールや新機能を発見できるかもしれません。

そして交流パーティー。300名を超える業界関係者が集い、情報交換やビジネスマッチングの機会として活用されています。翻訳祭企画実行委員会全員がこだわって準備したJTF翻訳祭。今年の翻訳祭は何かが違うと感じていただけたら幸いです。

JTF理事、第26回JTF翻訳祭企画実行委員長

古谷 祐一



第26回 JTF翻訳祭

全体テーマ：「考えよう、翻訳のこと～ともに歩む翻訳の未来へ～」

日 時：2016年11月29日(火)9:30～20:30(開場・展示会開始 9:00)

場 所：「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」

来場者数：900名(見込み) ※前年度890名

申込締切：2016年11月22日(火)まで

運 営：第26回JTF翻訳祭企画実行委員会

詳細は Web へ http://www.jtf.jp/festival/festival_top.html